



Anchor

アンカー



INSIDE

ニュースウォッチ 3

第二次世界大戦 7

第三次世界大戦が始まった!?! 12

底いも知られぬ人の罪 17

御業完成の鍵 26

後の雨/大いなる叫びに含まれる経験 33

創造主の傑作 恐竜!! 38

56号
2016年1月

巻頭言

2015年も神の祝福と皆様の祈りと支援でサンライズ・ミニストリーも支えられ、多くの方々に永遠の福音—三天使の使命を発信できたことに心から感謝の意を表したいと思います。

昨年は、明暗いろいろ混じった激動の年でした。国内外を問わず、戦慄させる諸事件が起きました。日本国内では、集団的自衛権の限定的行使を認める安保法案が可決、関東・東北豪雨、マイナンバー開始、イスラム国(IS)による人質被害問題、原発問題、日中韓の領土問題、さらに残忍性をます殺害事件、…そして新年早々、6日の北朝鮮核実験等々の恐怖と不安が押し寄せてくるのを感じさせられました。しかし、それら一つ一つを乗り越えていこうとする驚くべき日本人の知恵と技術による様々な発明、発見がいろんな分野で見られました。

そういうことは、日本ばかりではありません。世界においても同じです。

そのすごい能力を神から与えられていながら、「彼らは自ら知者と称しながら、愚かになり」と神は言っておられます(ローマ1:21, 22)。

神によって、恐るべく、くすしく造られた(詩篇139:14欽定訳)人間は、その能力を地球破壊のために使用する結果となり、地を滅ぼす者どもが滅ぼされる時が来るのです(黙示録11:18)。終わりの時のしるしが頻繁に、大規模に、世界的に起こっています。祝福に満ちたイエス・キリストの再臨が近づいているのを知ってその備えをしましょう。

アンカー誌は、主のご再臨を待望するよう奨励するばかりでなく、来るべき事件に備え、主の御業完成のために、人々の心を天の至聖所に向けさせることが最優先の使命です。そのために、ダニエル書とヨハネ黙示録の預言の研究によって、これから速やかに地に起こる諸事件と、主イエスが夜昼休まず働いておられる天の至聖所について学ぶことは、どんなに重要なことでしょう。

神が直接介入なさり、「働きの人を驚かせる方法」で「義をもって速やかに」ご自分の働きを終える時が近い将来必ず来ると信じて、神に協力しましょう。我々が神のみ業を終えるというラオデキヤのおごりを捨てたいものです。「この大いなるバビロンは、わたしの大いなる力をもって(わたしが-英文)建てた王城であって、わが威光を輝かすものではないか」ダニエル4:30。

「わたしが」「我々が」神のみ業を完成するというバビロンの高慢から脱却しない限り、神の御業を完成することは到底不可能であることを我々の教会史から学んでいるでしょうか。神が介入されようとした1888の尊いメッセージを我々は拒みました。古代イスラエルは、紅海を渡って荒野をさまようこと、40年でした。カナンを望んでいた多くの者がヨルダンを渡る前に死んでいきました。霊的イスラエルは、1844年から荒野をさまようこと40年+40年+40年+40年目に入っています。天のカナンを望んでいた、「燭台」とも言われる忠実な再臨説教者たちも眠りにつかれました。この最後の40年目に主が直接介入なさるとどれだけの者が信じているでしょうか。

2015年の世界総会は、難なく終わったように見えます。しかし、こんな報告があります:「過去50年の間(1960年-2014年)、セブンスデー・アドベンチストの教会員の総計は、33,202,016人であった。しかし、このうち、13,026,925人が教会を出ていった(これは死亡者を含まない)」世界総会公報2015,7月7日(Remnant Herald 2015年11・2月号に引用)。約1/3の信徒が離れたとはなんとショッキングな報告でしょう。

「『日は延び、すべての幻はむなしくなった』という、このことわざは何であるか」。しかし、『主なる神はこう言われる、わたしはこのことわざをやめさせ、彼らが再びイスラエルで、これをことわざとしないようにする』『日とすべての幻の実現とは近づいた』と主は言われる」(エゼキエル12:22, 23)。

我々は「望みをいだく捕われ人」(ゼカリヤ書 9:12)であることを感謝しましょう。

サンライズミニストリー代表 金城重博



PROPHETIC 預言的 NEWS WATCH 時事ニュース

法王の訪米

前代未聞！法王フランシスコの精神的政治スピーチ

両方ともカトリック



2015年9月24日上下議員国会での演説

左はジョー・バイデン副大統領（イエズス会）。
右はペイナー下院議長。プロテスタント米国の変貌ぶり！

黙示録 13章にあるように、パチカンと米国の癒着が顕わになった。昨年9月22日から27日の各地でのパレード、スピーチにアメリカ中が大興奮した。日本ではあまり報道されなかったが、かつてない大イベントであった。ペイナー下院議長は、20年間もこの日を待ちわびていたとして、法王のスピーチの間ついにこらえられなくて泣いて泣いて、ハンカチで涙を拭いた。

フランシスコ法王は初めてのイエズス会の法王であることを覚えていよう。

イエズス会の目的：大争闘上 294

- ① 富と権力の獲得
- ② プロテスタントの撲滅
- ③ 法王権の復興

ローマ・カトリックの狙い：大争闘下 321

- ① 世界支配
- ② 迫害の復活 自由の剥奪？（大下 320）
- ③ プロテスタント撲滅

プロテスタント・アメリカの「自由」が危ない!!!

「カトリック教会は無謬の主張を決してやめないであろう。この教会は、その教義に反対する者を迫害する

ために行ったすべてのことを、正しいと主張する。とすれば、機会があったら同じ行為をくり返すのではなからうか。現在諸国家の政府によって課せられている数々の拘束が取り除かれ、ローマが以前の権力を取りもどす時、たちまち圧制と迫害が復活するであろう」大争闘下 319。

「オコンナー司教は、『カトリックの世界に危険を及ぼすことなく反対政策を実施できるようになるまで、信教の自由をがまんしているにすぎない』と言っている」大争闘下 320。「ローマ教会は決して変わらないということがこの教会の自慢の種であることを忘れてはならない」同 340。

大人気の法王：



就任から2年半の間に世界に衝撃的な影響を与えてきた法王フランシスコは、一部で「ロックスター」法王と呼ばれている。

ツイッター上での影響力の大きさを表す「平均リツイート（拡散）数」でトップはローマ法王に。<http://vdata.nikkei.com/datadiscovery/06/img/dnikkei06.pdf>



ニューヨーク、マンハッタンの巨大な絵

フランシスコ法王の訪米は、アメリカ国民を大興奮に沸き立たせた。



ローマ法王が平和の使者？

「教皇は正に『平和の使者』として仲介役を果たし、世界の注目を集めている」。<http://blogs.yahoo.co.jp/judahephraim/12368574.html>

法王の発言：

「教会（もちろんカトリック）の交わりと黙想の外側においてイエス・キリストと個人的な、直接的な、即時的な関係を持つと考える者たちがいる。これらは危険かつ有害な誘惑である」6月14日。 www.dr-luke.com/diarypro/archives/4403.html <http://christianforums.net/Fellowship/index.php?threads/having-a-personal-relationship-with-jesus-is-dangerous.55445/>

法王の宗教連合戦略



嘆きの壁で確かめる友情：フランス法王、ユダヤの指導者ラビのアブラハム・スコルカとイスラムのオマル・アブド。

- ・「人々との触れ合いを大切にす法王。時には自撮りにも応じるなど、気さくな人柄で市民に大人気」
- ・調査会社ギャラップ社が七月にまとめた法王の好感度調査によると、米国民の59%が好ましいと答え、否定的とする16%を大きく上回っている。
- ・法王の動向はアメリカのメディアが大々的に取り上げ、高い注目を集めている。
- ・オバマ大統領とバイデン副大統領がそれぞれ妻子を伴って空港で出迎えるという、異例の対応で歓迎。
- ・深刻化する難民問題や貧困問題への対応、死刑制度廃止への取り組みを求めた。
- ・人工妊娠中絶や安楽死に関しては、「全ての段階で人間の生命を守る責任がある」と述べた。
- ・移民や格差の解決呼びかけ。
- ・法王はまた、地球温暖化が人間の活動由来であることに疑念をもつ保守派を念頭に、「人間の活動が引き起こした環境悪化」を防ぐための勇気と責任ある努力を呼び掛けた。
- ・米最高裁、同性婚認める。6月26日

米カトリック週刊誌が同性愛カップルを「時の人」に

— CHRISTIAN TODAY 2016年1月5日 —



<http://www.christiantoday.co.jp/articles/18423/20160105/catholic-person-of-the-year.htm>

? バチカンとルーテル世界連盟、2017年に「宗教改革500年記念」

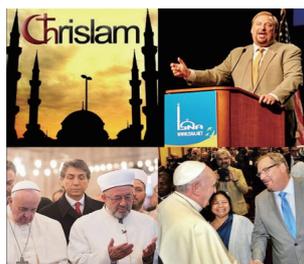
— CHRISTIAN TODAY —

【CJC=東京】バチカン（ローマ教皇庁）とルーテル世界連盟（LWF）は、双方の違いよりも、共通の信仰を強調して「宗教改革500年」を2017年に記念する計画。バチカン・キリスト教一致推進評議会議長のクルト・コッホ枢機卿とLWF（ルーテル世界連盟）のマルチン・フンヘ総幹事がジュネーブで6月17日、共同文書「争いから交わりへ」を発表した。文書は、数世紀にわたる「争い」を掘り返すためのものではない、としている。 <http://www.christiantoday.co.jp/articles/11877/20130628/news.htm>



法王のクリスラム (Chrislam) (「キリラム教」とも言う)

ローマ教皇は、クリスラム (Chrislam) を宣言して世界統一宗教を目指すことを明らかにした。 <http://kaleido11.blog.fc2.com/blog-entry-3855.html>



クリスラム=キリスト教とイスラム教とを結合した言葉。バチカン同盟国一有志連合とイスラム国家 (IS) との熾烈な戦いの中で、穏健派イスラムとの間に協調路線も打ち出し、キリスト教とイスラムを結合した言葉も流行っている。「世界統一政府」「世界統一宗教」…

グローバル・エリートの計画が着々と進められていることは、誰が見ても分かるはずである。

「何も感じない人は、先々、少しマズイです。少し頑張って情報を自分で精査する習慣をつけてください」。<http://kaleido11.blog.fc2.com/blog-entry-3855.html>

カリフォルニアのオレンジカウンティを拠点とするサドルバック・コミュニティ教会の創設者であり、牧師であるリック・ウォレンは最近も、キリスト教とイスラムの融合を説く米国の有名伝道者。大統領の朝食会でも祈祷する。

タイム誌が選んだ「世界に影響を与えた100人」の1人。「アメリカで最も影響力のある霊的指導者」と称される人物。著書に『人生を導く5つの目的』がある。<http://www.logos-ministries.org/blog/?p=1233> 参照。

<http://www.nowtheendbegins.com/pope-francis-rick-warren-unite-global-chrislam-conference/>

自然災害



2015年4月25日にネパールで発生した地震。

2015年5月15日、ネパール内務省報道官が地震による死者8,460人・負傷者2万人以上になったことを発表。



「またあちこちに地震があり、またきぎんが起る」マルコ 13:8



竜巻、山火事、大雨、干ばつ等々が頻繁に、しかも大規模に起こっている。対岸のアメリカの自然災害は勢いを増している。これらもまずアメリカで「日曜休業令」が発せられることと

関係があることを覚えていなければならない。

フランス史上最悪のテロ事件：パリ7箇所同時多発テロ発生



11月13日、パリでテロ、100人超死亡か＝仏大統領「前例ない」一銃撃と爆発、競技場で自爆も <http://honyakualfa.blog.fc2.com/>

blog-entry-156.html

パリ同時多発テロで震撼する米国：難民よりも大きな脅威



パリでの同時多発テロから3日後の2015年11月16日、過激派組織イスラム国 (IS) はパリ攻撃に続いて「アメリカの首都ワシントンも

攻撃することを誓う」とネット上で宣言した。米連邦捜査局 (FBI) は米国に対する確かな脅威は把握していないと述べつつも、ワシントン市内では警察がISのテロ攻撃に備え、警備を強化している。

オバマ大統領 ことし最後の会見でテロ対策強調 12月19日

日本の対応

安倍首相は日本時間の16日未明、トルコのアンタルヤで開催されているG20首脳会合で、パリでの同時多発テロについて、

国際社会のテロ根絶に積極的に取り組んでいくという姿勢を明らかにした。

テロ対策でイギリスのキャメロン首相との会談で安倍首相は、「緊密に連携してテロ対策に取り組む」と発言。

これに対してキャメロン首相は次のように応じたという。日本と英国はテロの被害者であり、ともに戦う立場だ。

前代未聞の難民問題

2015年6月19日 朝日新聞 Digital



20日の「世界難民の日」を前に、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) は18日、世界の難民や国内避難民が1年で830万人

増え、2014年末に過去最多の5950万人になったと発表した。

特に深刻なのが、400万人近くに急増したシリア難民だ。国連は各国に受け入れを要請しており、ド



イツのように約2万人を受け入れた国もある。

日本が、これまでに難民として認定したシリア人は3人のみ。UNHCR駐日事務所のマイケル・リンデンバウアー代表は「日本を含む各国に受け入れを求めており、連帯をお願いしたい。シリア難民はか



つてない規模で増え、周辺国だけではまかないきれない」と、日本に協力を訴える。www.nhk.or.jp/fukayomi/maru/2015/150509.html

今や武力紛争、人権侵害、同性愛者の人たちが迫害を受けることもあって、自国にいられず、ほかの国に守られたり、かばわれたりすることが必要な人たちが難民と言われている。その数5,000万人以上になっている。

シリアの国民のおよそ5人に1人が難民になっている。<https://ja.wikipedia.org/wiki/2015%E5%B9%B4%E6%AC%A7%E5%B7%9E%E9%9B%A3%E6%B0%91%E5%8D%B1%E6%A9%9F>

世界中の難民や避難民、過去最高の6000万人はるかに上回る＝国連 International | 2015年12月18日 17:16 JST ロイター

シリア難民急増「日本も協力を」と国連は受け入れ訴え。



米大統領選の共和党候補指名争いで首位に立つ不動産王、ドナルド・トランプ氏は難民受け入れに絶対反対を表明した。共和党では首位にあるものの、大統領になるとは限らない。しかし、それほど米国民がISテロに脅えていることの証拠の一つであろう。

イギリスBBC 公立学校が“イスラム化”？

2014年6月16日(月)

「公立学校を監督する組織『オフステッド』が、今

月(6月)10日、イギリス第2の都市・バーミンガムの公立学校21校のうち、5校で、男女を隔離した授業を行うなど、イスラム強硬派の影響を強く受けているという調査結果を発表し、波紋を広げています。」
<http://www.nhk.or.jp/catchsekai/marugoto/2014/06/0616.html>

ISに資金提供「G20含め40カ国」プーチン大統領

ロシアのプーチン大統領は16日、テロ問題が中心議題となった主要20カ国・地域(G20)首脳会議後の記者会見で、過激派組織「イスラム国」(IS)に資金提供している国がG20の加盟国を含めて40カ国に上るという見方を示した。<http://www.asahi.com/articles/ASHCK219BHCKUHB100B.html>

ISISがトヨタ車利用、米財務省が情報提供求める

アトランタ(CNN) 過激派組織「イラク・シリア・イスラム国(ISIS)」がトヨタ製のトラックを入手していることが宣伝ビデオで明らか



になり、米財務省が7日までに、トヨタ自動車に対してISISに車が渡った経緯について情報提供を求めた。<http://www.cnn.co.jp/business/35071565.html>

世界の墮落と腐敗の原因はどこにあるか？

「神の律法はもはや拘束力がないという信仰を導入することによって、彼は、ちょうど戒めに全く無知である場合と同じほど効果的に人々を導いて罪を犯させるのである。そしてサタンは現在も、昔の時代と同様に、教会を通して自分の計画を進めようと働いている。…一般の多くの教師たちは、あまり守りたくない義務から逃れる唯一の道として、神の律法はもはや拘束力を持っていないと宣言する。このようにして彼らは、律法も安息日もともに捨て去るのである。安息日の改革の運動が広がるにつれて、第4条の要求を無効にするため神の律法を退けることが、ほとんど世界的になる。宗教界の指導者たちの教えは、不信仰への道、心霊術への道、そして神の律法に対する軽べつへの道を開いてきた。だから、今日のキリスト教界に存在する不法の恐るべき責任は、これらの指導者たちにあるのである」大争闘下348。

第二次世界大戦

「暗躍するテロリスト」より

ビル・ヒューズ
砂川満 訳

まえがき：

2015年は、メディアで盛んに「戦後70年」として幾たびも報道された。戦後70年が経過し、いろいろな事実が明らかになってあまりにも多くの人の命が犠牲にされたこと、また、日本は、マインドコントロールされ戦争に突入したこと等、映像や文章で見せられ、聞かされ震えおののかされた年であった。

誰が、何のために戦争を起こすのか、その謎を解き明かす非常に興味深い本がある。

ビル・ヒューズ著、砂川満訳「暗躍するテロリスト」が近日中に出版予定。

- 第1章 狙われたアメリカ
- 第2章 アンドリュー・ジャクソン大統領
- 第3章 ハリソン、テラー及びブキャナン
- 第4章 アブラハム・リンカーン大統領
- 第5章 タイタニック号の沈没
- 第6章 第一次世界大戦
- 第7章 第二次世界大戦
- 第8章 ジョン・F・ケネディ大統領
- 第9章 ウェイコ市の大虐殺
- 第10章 オクラホマ市の爆破事件
- 第11章 世界貿易センターへの攻撃
- 第12章 アメリカにおける宗教テロ

その本から一部を紹介したい：「信じるか信じないかはあなた次第」。

第二次世界大戦は、歴史上もっとも広範囲に及び、最も破壊的な戦争であった。この戦争の犠牲者は、数千万人にも及んだ。なぜこの戦争が勃発したのか、又は何がこの戦争を引き起こしたのか、ほとんどの人は知る由もない。戦争というのは、なんとかなしに起こるものではない。政府のお偉いさん方の都合で、彼ら自身によって計画され、遂行されるのである。フランクリン・ルーズベルト大統領は、次のように述べた。「政治において、偶然に起こるものは何もない。起こるとしたら、そのように計画されていたということは確実である」。誰が第二次世界大戦を計画したのか、これから見ていこう。

「歴代の法王やイエズス会の諜報員らが、過去においても現在においても、戦争の扇動者である。世界中が苦痛にあえいでいる間、ローマはシャンパンで乾杯している」（ジェレミア・J・クラウリー〔元カトリック司祭〕著、ローマニズム、144ページ）。

「ヒトラーやムッソリーニと同様に、法王も第二次世界大戦に関与していた。ゆえに法王も、600万人のユダヤ人虐殺について有罪である。事実、歴代の法王たちは、何世紀にもわたり、すべてではないにせよ、ほとんどの戦争を扇動してきた」（F・ポール・ピーターソン著、発見されたペテロの墓、63ページ）。

「1914年からの一連の戦争はローマ教会が始めたと、極めて明確に言うことができる。ローマが常に民衆から搾り取ってきた血の貢ぎ物が、すさまじい激流へと膨れ上がり出したのは、その頃であった」（エドモンド・パリヌ著、欧州に敵対するバチカン、48ページ）。

他の戦争と同様、第二次世界大戦の扇動者も法王教であったことを暗示する著述家らは、他に何人もいる。これらの記述を踏まえると、イタリアのアッシジで開かれた会合については、聞くだけで不快にさせられる。

そこで、ヨハネ・パウロ二世は、次のような発言をした。「暴力反対！戦争反対！テロ反対！」と。法王教は過去に数々の戦争を煽り立て、今日もそうしているながら、法王は、あたかも平和の使者のようにふるまっている！

2001年9月11日の事件をきっかけに、アメリカはテロとの戦争に突入した。この戦争に関しても、法王教が黒幕であることは、上の引用文から明らかである。

USAトゥデイ 2001年9月17日号の中で、ジョージ・ブッシュは、かれの政権がテロに対して聖戦〔十字軍〕を準備していると明言した。中世時代、十字軍というのは、法王教を利するために派遣され、宗教戦争を引き起こしたのであった。このテロとの戦いも、法王教を利するために行うのだと、ブッシュ大統領は言いたいのだろうか？

アドルフ・ヒットラーは、第二次世界大戦中のヨーロッパにおける、あらゆる残虐行為の張本人であった、と言われている。本当に彼は、独断であれほどの非道行為を扇動また先導したのだろうか？それとも、誰かの命令下で動いていたのだろうか？陰でナチスの糸を引いていた者がいたのだろうか？

「ドイツにおいては、ベルリンのローマ教皇大使パセルリとフランツ・フォン・パペンが教皇の随員であり、彼らが『ローマとの同盟』を奨励し、ワイマール共和国の打倒に精力を注いだ。ドイツのカトリックはナチスに敵対していたが、法王自身がヒットラーに好意的に傾いてきていることを知らされたのであった。その結果、議会で多数派であったカトリックの政党は、1933年1月30日、ヒットラーに票を投じ、彼に全権をゆだねたのである。

イタリアなどでは、ローマ教会にとって最も好都合であった政教条約の決定によって、この事業は速やかに従事された。ドイツの監督団は、総統やナチスと連合したカトリックの青年協会に忠誠を誓った」（エドモンド・パリス著、欧州に敵対するパチカン、15ページ）。

「パチカンは、ヒットラーの手助けをして権力を握らせ、それからさらに、ドイツでの支配力を強化する手助けをした。ドイツのカトリック政党に、ナチスの候補者に投票するよう助言することで、これを成し遂げたのである。

1933年、合法的に政府を組織するのに必要としていた過半数票をヒットラーに与えたのは、カトリック票であった。これに加えてパチカンは、ヒットラーに支配権を与える法律を支持するために、国民議会のカトリック議員らに命令を出した。この処置が、ドイツ共産党をやっつけるためにヒットラーが必要としていた

独裁権力を、彼に与えたのである。

1933年1月、ヒットラーがドイツの長官になる前、パチカンとヒットラーの取引は、秘密裏に行われていた。同年6月、ヒットラーとパチカンは、教会はナチス政権に忠誠を誓うという文言を入れて、政教条約に署名した。・・・

その後、間もなくして、序列においてヒットラーの次の地位にある、カトリック信者のフランツ・フォン・パペンは、ヒットラーとパチカンの同盟について、極めて簡潔に『第三のドイツ帝国』と呼び、さらに『それは、法王教の高い諸原則を認めるだけでなく、実践する最初の権力である』と述べた」（アフロ・マンハッタン著、パチカンとモスクワとワシントンの同盟、42、43ページ）。

実に驚くべき発言ではないだろうか。フォン・パペンは、第二次世界大戦中にヒットラーが行った数々の残虐行為は、法王教の「原則」であると述べているのである！法王教がヒットラーとその政権と同様に邪悪であるということに、疑いの余地はあるだろうか？

「ヒットラーが、そのイデオロギー戦争を続けるにあたって、イエズス会の対改革の手法に助けられていたということは、彼自身が認めている。・・・独裁政権をあらゆる民衆に押しつけるために、ナチスとファシズムが行ったあらゆる方面の大っぴらな後援を、我々は目撃してきた」（レオ・H・リーマン著、独裁者の背後、36、38、39ページ）。

ヒットラー政権の中枢にイエズス会の脅威が存在したことは、正確な歴史の記述を見れば明らかである。1933年にヒットラーを権力の座へと据えたのは、カトリック信者のパペンとカトリック政党であり、その返礼として、ヒットラーの第三ドイツ帝国は、法王教の原則を最悪の形でお手本にしたのであった。ヒットラーは単に、イエズス会の手の中にある将棋の駒に過ぎなかったのである。

そもそも、ドイツをあれほど荒廃させた戦争中、誰がヒットラーを支援したのだろうか？第一次世界大戦と悪質なベルサイユ条約によって、ドイツがどん底まで追いやられたことを覚えられたい。

「わが国家銀行の預金者らに属する莫大な金額が、一切の担保保証もなく、ドイツに贈与された。・・・1932年4月27日、連邦準備団体は、米国銀行の預金者らに属する75万ドルを、金でドイツに送った。一週間後、さらに30万ドルが、同様の方法でドイツに送られた。5月中旬ごろには、連邦準備銀行により、1200万ドルが金でドイツに送られた。ほとんど毎週、おびただしい量の金塊がドイツに運ばれたのであった」（H・S・ケナン著、連邦準備銀行、158ページ）。



前章で見てきたように、連邦準備銀行は、イエズス会が創立したものであった。アドルフ・ヒットラーのような正気を失った操り人形に資金を融通するために、彼らは連邦準備銀行を用いるのである。ヒットラーとナチスに融資をしたのは、連邦準備銀行であったと、ケナンは明言している。もし連邦準備銀行がアメリカ人によって経営されているとしたら、合衆国憲法のあらゆる原則を否定する、ヒットラーのような怨敵を、どうして支援することができただろうか。ケナンの発言によれば、連邦準備銀行はアメリカのものではない。われらの敵を支援する者たちは、当然われらの敵である。したがって、イエズス会が牛耳っている銀行が、アドルフ・ヒットラーのようなイエズス会の操り人形に資金援助をするのは、至極当然と言えるのである。

次に、スペインとフランシスコ・フランコについて考えてみよう。1800年代の終わりにかけて、スペインは激動の時代であった。スペインは、ローマ・カトリック君主政体と自由共和政体との間を行ったり来たりしていた。それから1930年代に、いくつかの修道院の地下で、赤ん坊の遺体が発見された。医者が調べてみると、これらの赤ん坊は窒息死したということが分かった。つまり、修道士や修道士たちが姦淫を犯しており、望まれない多くの赤ん坊は、生まれてすぐに殺されたのであった。そのようなおぞましい犯罪が行われていたことを知ったスペインのカトリック信者たちは激怒し、その結果、スペインに法王教の勢力が及ぶのを防ぐ法律がいくつもつくられた。元イエズス会士のアルベルト・リベラ氏は、次のように述べている。

「1936年に、新たな宗教裁判が勃発した。それは『スペイン内戦』と呼ばれ、バチカンで秘密裏に画策されたものであった。・・・

法王は、スペイン共和政体の上層部の人たちを破門し、法王庁とマドリードの宣戦を布告した。・・・バチカンの旗の下、イスラムの軍隊がカナリア諸島を侵略し、それから南スペインを攻撃した。・・・宗教裁判がその目的を果たすと、スペインは荒廃し、血を流

して打ちひしがれた。が、再びバチカンの手の中におさまった。・・・結局フランコ将軍は、スペインにおいてローマ・カトリックの独裁者となったのであった。内戦が終結するほんの20か月前の1937年8月3日に、フランコの政府はバチカンの承認を受けた」（ジャック・チック著、アルベルト、12、21、28、29ページ）。

「スペインにおける内戦終結近くになって、フランコがマドリードに進軍したとき、またかれが、カトリックの政府を再興し、数年前に新教徒らが打ち立てた人民政府をひっくり返したとき、彼はこのように述べた。『私は、四つの縦隊を率いている。さらにマドリード市内に第五の縦隊を擁しており、彼らは私がそこに到着するや否や、寝返って市を私に引き渡すことになっている』（アルバート・ゲーマー著、悪魔の傑作、70-71ページ）。

「1934年3月31日、ローマ協定が結ばれ、ムッソリーニとヒットラーの反乱を支持するとの誓約がなされた。こうして、『聖戦』が勃発したのである。1937年、戦争のさなかにあつて、バチカンは、その太刀持ちであるフランコの政府を正式に承認した。後にフランコには、イエズス会最高の栄誉が授けられた。『福音の花を咲かせる銃器は幸いである』と。カトリックが、その暴政を荒廃した国中に広めようと、行動を起こす時が近づいていた」（エドモンド・パリス著、欧州に敵対するバチカン、15ページ）。

ベニト・ムッソリーニは、イエズス会から高く評価されていた。1929年にバチカン市国を復活させてくれた、法王教にとっては摂理の人であった。

「二つの虐殺の間に、ヨーロッパで何が起こったのか？イタリアでは、法王教の代表らと、『摂理の人』ムッソリーニとの間で、極秘の交渉が行われた。ドン・ストゥルゾ司祭長は、1922年11月、全権を首領にゆだねた。それから、ファシスト党と法王教の連合を決定づける、ラテラン条約が結ばれた。・・・」（同上、15ページ）。

ピウス十一世によると、

「ムッソリーニは全速前進中であり、行く手にあるものをことごとく征服した。ムッソリーニはすばらしい人物だ。・・・未来は彼のものだ」（同上、69ページ）。

「今日のところ、ローマはファシスト政権を、その教義と利益に最も近いものとする。我々には、ムッソリーニのイタリアを『キリスト教民主主義』と称えている、コフリン神父がいるだけでなく、イエズス会の広報誌であるシビタ・カトリカでも、かなり率直に、『ファシズムは、ローマ教会の概念と最も密接に呼応する政権である』と述べられている」（ピエール・バンパーセン著、われらの時代、465ページ）。



先に挙げた引用の中に、ヒトラーが法王教の無情な原則を実践したことが述べられていた。これで、ムッソリーニも同様であったことが分かった。第二次世界大戦中にローマの命令を行ったのは、カトリックの操り人形たちによって操られた、これら三つの枢軸国だけではなく。合衆国のフランクリン・ルーズベルト大統領も、ローマの願望を遂行したのである。

「スペルマン〔枢機卿〕は、彼の管区を数か月間離れるのを余儀なくするような、前例のない機会の提案を、ルーズベルトから受けた。・・・ルーズベルトの出した仰天するほどの提案とは、スペルマンが彼のために内密の代理人として、世界中を巡るというものであった。中東やヨーロッパ、アジアやアフリカの国々の首長らと接触することが、大司教の仕事となるのであった。彼が大統領のメッセージを伝え、・・・ルーズベルトの手足となって行動するのであった。・・・他のいかなるアメリカ人宗教家も持ち得たことのない権力を行使する機会を、大統領は彼に提供したのである。スペルマンは、世界の政治舞台で、最高権力者らと対等に渡り合うのであった。・・・ところが、大司教がその広範囲にわたる旅行中に行ったことについて、信頼できると考えた人はほとんどいなかった。彼の内密の働きは、宗教の大物が政治の問題に関わることについて、国内で疑問の声が起こった」（ジョン・クーニー著、アメリカ人法王、124、125ページ）。

スペルマンの第一の忠誠は、法王ピウス十二世に対してであったにもかかわらず、フランクリン・ルーズベルトは、彼を自らの代理人として用いたのである。

ルーズベルトについては、次のように書かれている：

「ルーズベルトとアイゼンハワーは、約600万の人々〔正教徒〕をロシアに強制送還することを承認した。彼らの多くは、目的地に着いた後、拷問されたり殺害されたりした。これらのアメリカ人指導者らによる、この忌まわしい決断について、二人のロシア人が書き記している。彼らの名は、ニコライ・トルストイとア

レクサンダー・ソルジェニーツィンである。アメリカ人は、この強制送還の作戦を、『オペレーション・キールホール』と呼んだ。それは、捕虜や囚人を船の竜骨にロープで縛りつけ、船底に付着している石によって無残に切り刻むという、海軍式の拷問にちなんで名づけられた。

これら600万の人たちの中には、ドイツに味方してロシアと戦った兵士らだけでなく、女性や子どもたちも大勢いた。・・・

数百万の反共産主義ロシア人たちを、確実に殺される場所へ送り返すのを決めたのは、チャーチルとルーズベルトであったが、『オペレーション・キールホール』を良心の呵責もなく遂行したのは、ドワイト・アイゼンハワー将軍であった」（ラルフ・エパーソン著、見えない手、301ページ）。

ルーズベルトはスペルマンを代理人として用いただけでなく、可能な限り多くの正教徒を抹殺するというイエズス会の目的を遂げるのにも加担した。第一次世界大戦において、イエズス会は、セルビアの正教徒たちを抹殺しようとした。そして第二次世界大戦の終わりごろになって、この強制送還を実行することで、かれらはさらに何百万ものロシア人正教徒を抹殺したのである。ルーズベルト、アイゼンハワー、チャーチルは、イエズス会の血なまぐさい計画を実行し、目覚ましい成功を収めたのであった。

「イエズス会の将軍、カウント・ハルケ・ボン・レドコフスキーは、反共産主義という共通基盤の上で、ある意味ドイツの秘密結社とイエズス会との合作品を組織するようにとの指令を受けていた。・・・

ボン・レドコフスキーは、ロシアとドイツの来たるべき好戦的な決定は避けられないと考えていた。・・・またパセレール・ナクリクテン（1942年3月27日）は、ためらうことなく次のように書いた。『パチカンにとって極めて重要である、ロシアにおけるドイツの活動から起こる疑問のひとつは、ロシア伝道という疑問である』と。

この事は、デュークロス神父自身によって、教会の出版書の中で確認されている。『1941年の夏、ヒトラーはすべてのキリスト教勢力に訴えて、・・・カトリックの伝道者が新たな東の領土へ行く権限を与えた』と」（エドモンド・パリス著、欧州に敵対するパチカン、240、241ページ）。

ロシアの正教会クリスチャンたちが法王教によって駆除されている間、ユーゴスラビアでは、同様の虐殺が行われていた。第二次世界大戦のこの残虐行為について書かれた多くの本の中に、「改宗か死か！」（エドモンド・パリス著）、「パチカンによるユダヤ人大虐殺」

(アフロ・マンハッタン著)、「凶暴な狼」(モニカ・ファーレル著)などがある。これらの本はどれも、第二次世界大戦中、カトリック教徒であったウタシによる百万もの正教徒の殺害について触れている。ファーレルの本の裏表紙には、次のように書かれている。

「これは 1941 年から 1943 年にかけて、ウタシとして知られるカトリック活動家の軍隊によって、ヨーロッパで行われた拷問と殺害の記録である。ウタシの活動は、修道士や司祭らが主導しており、修道女たちも関与していた。犠牲者たちは、良心の自由の大義において傷つけられ、殺された。彼らの苦しみの記録を読み、それが起こったのが暗黒時代ではなく、この啓蒙された世代であったということを感じるのが、我々にできる最低限のことである。ウタシとは、カトリックの活動の別名である」(モニカ・ファーレル著、凶暴な狼、裏表紙)。

「正教会クリスチアンの集団的排除またはローマ・カトリックへの強制的改宗が、そもそもの計画であった。クロアチアにおけるセルビア人の排除を目標に、あらゆる措置がとられた。あるクロアチア人牧師が宣言したスローガンの下、その計画は遂行された。それは、次のようなスローガンであった。『われわれはセルビア人の三分の一を虐殺し、三分の一を国外に追放し、残りの三分の一を強制的にカトリックに改宗させ、それによって、かれらはカトリックの元素に吸収されるのである』(ラゾ・M・コスティッチ著、独立国クロアチアにおける大虐殺、18 ページ)。

1990 年代後半になっても、法王教はセルビアの正教会クリスチアンの駆除に精力的であった。法王教は自らの用心棒に米国を用い、セルビアを爆撃させた。真の殺戮者はスロボダン・ミロセビックではなく、法王とカトリック教会である。間違った人物が、戦犯として血祭りにあげられたのである。

第二次世界大戦におけるイエズス会のもう一つの目的は、ユダヤ人の状況を悪化させて、彼らがパレスチナに帰還したくなるように仕向けることであった。第一次世界大戦の終わり近くになって、ユダヤ人をパレスチナに帰還させるためのバルフォア宣言が調印された。彼らをパレスチナに定住させるためであった。ところが多くのユダヤ人は、世界のあちらこちらで成功を収めていたので、帰還することを望まなかった。第二次世界大戦が勃発してユダヤ人の大虐殺が行われると、弾圧されたユダヤ人たちは、故郷と呼べる場所を願望するようになり、多くの人たちがパレスチナに帰還した。そして独立した。クーニー著、「アメリカ人法王」の 187 ページによると、イスラエルが主権国家として認められるにあたり、フランシス・スペルマンが決定要因であったようである。

イエズス会はなぜ、ユダヤ人を全滅させるためにヒトラーを用い、それからパレスチナに、彼らの安住の地を、イエズス会員であるスペルマン枢機卿に用意させたのだろうか？ 覚えていてもらいたいのは、パチカンは約千年にわたり、ユダヤ人を撲滅しようと努めてきたという点である。

「・・・シオニストの旗の背後に、シオンのあらゆる先見者や預言者が予告してきたような、世界的神政政治の到来への、古来のメシア願望が見られる。それは、キリストではなく、エホバが王となるべき神政政治である。

このような神政政治の創造という亡霊は、カトリック教会の初期から、教会の奥まった部屋で出没しており、今でもなお、主要な恐れの種類である。

ゆえにパチカンの目で、世界的なヘブライの神政政治を求める至福千年説を信じる者たちの切望が、カトリック教会の終末論的教義にとって、致命的な脅威となる。現実的な政治用語に訳されるならば、このような見解は対立のみならず、容赦のない敵意をもたらすのである」(アフロ・マンハッタン著、パチカンとモスクワとワシントンの同盟、169、170 ページ)。

表面上、パレスチナにおけるイスラエル国家は、ユダヤ人らが祖国を持つことのできる絶好の機会に思われる。しかし、ユダヤ人らがパレスチナに帰還した結果、彼らはどうなったであろうか？ 1948 年に主権国家として認められたものの、以来ユダヤ人は、アラブ諸国との終りの見えない戦争に次ぐ戦争を経験してきた。多くのユダヤ人が命を落としたが、それはイエズス会の見込んだ通りの結果であった。

ユダヤ人がパレスチナのイスラエルに帰還するに伴い、イエズス会はこういった流血沙汰を引き起こし、世界中から平和の使者を求める声上がるのを期待した。その平和の使者は、誰が演じるのであろうか？ というまでもなく、パチカンのローマ法王である。イエズス会は、長年にわたり、法王の俗権を回復しようと努めてきた。エルサレムにて、法王にソロモンの王座が与えられるとき、待ちに待った目標が達成されるのである。2001 年 9 月 11 日に端を発した一連のテロ事件は、パレスチナ地方の問題を悪化させ、それがエルサレムにおける教皇の統治実現に一役買うであろう。

第一次世界大戦後、イエズス会は、全世界を支配する試みに失敗した。第二次世界大戦後、彼らは自分たちの目標に向けて、着々と邪悪な計画を推し進めてきた。戦後、うみ疲れて病んだ世界は、国際政府を受け入れるように仕向けられ、そして国際連合が誕生したのである。1945 年の国連の創設以来、このいわゆる「調停」組織は、世界の平和を保つのにことごとく失敗し

てきた。なぜか？平和の維持が目的であると公言し続けながら、彼らの目的は別にあるからである。世界では、常に何十もの戦争が繰り広げられている。そしてこれらの戦争は、平和を愛する人々を抑圧するのに貢献してきた。国連は倦むことなく、法王教の俗権を回復させるために働いてきたのであり、それが当初からの目的なのである。

第二次世界大戦を引き起こしたイエズス会には、もうひとつの目的があった。それは、日本への報復であった。1500年代後半、日本は、貿易を求めてくるすべての外国人に、門戸を開いていた。カトリックの宣教師らも、歓迎されていた。しばらくたってから、カトリックの宣教師らが、他のすべての宗教に対して、不寛容な態度を示すようになっていった。その結果、暴力と迫害が顕著になり、日本では何十年にもわたって殺戮が繰り広げられた。ついに1639年、外国人の国外追

放令が施行された。

「今後、太陽が世界を照らす限り、誰も日本に向かって航行できると考えてはならない。たとえ大使であっても同様である。またこの宣言は、決して覆ることがない。違反者は、死刑に処せられる」(アフロ・マンハッタン著、ベトナム：なぜ参戦したか？ 153ページ)。

二百年近くもの間、日本の港は、国の乗っ取りを試みたイエズス会に対して閉ざされていた。19世紀後半になって、この島国に対して武力が行使された。この日本への報復は、20世紀半ばの南太平洋における血なまぐさい戦争まで執拗に続けられ、広島と長崎への原爆投下で最高潮に達したのであった。こうして、日本は永久に屈服させられた。

TOPIC

第三次世界大戦が始まった!?

金城 重博

インターネットに次のような記事があった：

ローマ教皇も言及！ 2015年、ついに第三次世界大戦が始まった!?

世界中のサイキックたち（神霊能力者）が、2015年に人類が破滅へと向かうことを予言していた。その中には、『2015年に第三次世界大戦が勃発する』との指摘も多かったが、この恐るべき予言がとうとう的中してしまったようだ。なんと、ローマ教皇が「すでに第三次世界大戦が始まっている」という旨の発言を行い、世界中のメディアを驚かせている」。 http://www.excite.co.jp/News/odd/Tocana_201511_2015.html

ローマ法王フランシスコはミサの中で、欧州全土から訪れた数万人の巡礼者たちに向けて、**世界は第三次大戦の状態にある**との懸念を表明した。英 The Telegraph 紙が伝えた。 http://jp.sputniknews.com/japanese.ruvr.ru/news/2014_09_14/277272472/

ローマ法王は、「2つの世界大戦後のこんにちでさえ、地域紛争、大量虐殺、人間の殺害、その他の侵略者やテロリストたちの犯罪の中で行われていることを**第三次大戦**であると述べる事ができる」と

語った。 http://jp.sputniknews.com/japanese.ruvr.ru/news/2014_09_14/277272472/

今年、1月5日のBSフジ【プライムニュース】で2016年の世界情勢を読み解く」というテーマで徹底議論がなされた。



「イスラム国」のテロなどで大きく揺れ動いた世界が今後どうなっていくのか。

「第三次世界大戦の罨・新たな国際秩序と地政学を読み解く」を共著で出した2人を迎えて世界情勢の行方、安倍政権の外交について徹底議論する。

作家、元外務省主任分析官、佐藤優と明治大学特任教授、山内昌之をゲストに迎えて「第三次世界大戦」の可能性を指摘し、核戦争への危機感も示した。



「ここで注目しなければいけないのはローマ法王フランシスコの発言だ」と何度か言及していた。

11月13日に発生したパリでの同時多発テロを受けて、オランド大統領までもが「フランスは戦争状態にある」と演説している。

聖書の預言：

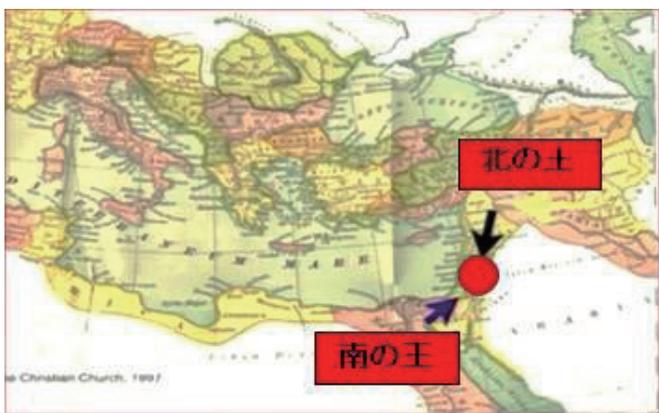
「終わりの時」の最後の大戦

ダニエル 11:40-45 に、「終わりの時」になって熾烈な戦いが起こることが預言されている。

- ① 一つは 11:40-43 の「南の王=イスラム」対「北の王=ローマ法王教」との戦い。
- ② 二つ目は、11:44 の戦い「北の王=ローマ法王教」と「東と北からの知らせ=神の民」との戦い

アンカー 46号「世界支配を狙う二大勢力」に説明したので、詳しくはそれをご覧頂きたい。現在、去年のパリテロ事件以来、ますます世界的にエスカレートしている。欧米ばかりでなく、日本までも巻き込まれるのではないかという危機感が襲ってきているので考えてみたい。

1. 終わりの時の「北の王」と「南の王」について



ダニエル書で世界帝国の覇権は、バビロンからペルシャへ、ペルシャからギリシャへ、ギリシャからローマへと移っていくことが、ダニエル2章、7章、8章の預言で分かる。11章では繰り返しながら、更に詳しく説明している。ギリシャのアレキサンダー大王が死んでから四つの国に分かれる。それが「北の王」セレウカス王朝と「南の王」エジプトに分かれる。「北の王」「南の王」の呼び方は神の民、イスラエルが住んでいたエルサレムを中心として呼ばれていた。エルサレムの敵はいつも北の方、南の方から来たからである。ローマも北の王であった。

11:1-22まで、すなわち十字架以前は軍事的、地域的な戦いであった。



しかし、11:23に、異教ローマに次ぐローマ法王教の起こりが描かれていて、エルサレムを巡っての十字軍とイスラムの戦いが繰り広げられていく。中東という地域的な戦いから世界的戦い、つまり地政学的戦いから霊的/宗教的戦いに展開していく。

11:36-12:3までは、法王教とイスラムとの戦いを描写している：

1095年法王ウルバン2世は十字軍結成を呼びかけた。

- 前クルセード（法王教十字軍）とイスラムの（ジハード=聖戦）1095-1272年。
- 後半のクルセード（法王教十字軍）とイスラムの（ジハード=聖戦）オスマン帝国時代（宗教改革時代も含む）1449-1840年。1840年8月11日-オスマン帝国の失墜（イスラム）

十字軍とイスラムの戦いは、9回あったと言われている。第一回は十字軍がエルサレムを占拠。しかし、二回以後の戦いでエルサレムはイスラムに占拠されている。

さて、最後のクルセード（法王教十字軍）-有志連合軍とイスラム過激派ISはどうなるか？

これを現代社会は「第三次世界大戦」と言っているのか？

ハルマゲドンの戦いではないことは確か！聖書から確かめてみよう。



まず、預言を見てみよう：

ダニエル 11:40 「**終りの時**になって、**南の王は彼と戦います**。**北の王（法王教）は、戦車と騎兵と、多くの船**をもって、つむじ風のように彼を攻め、国々には**いって**いって、**みなぎりあふれ、通り過ぎる**でしょう」。

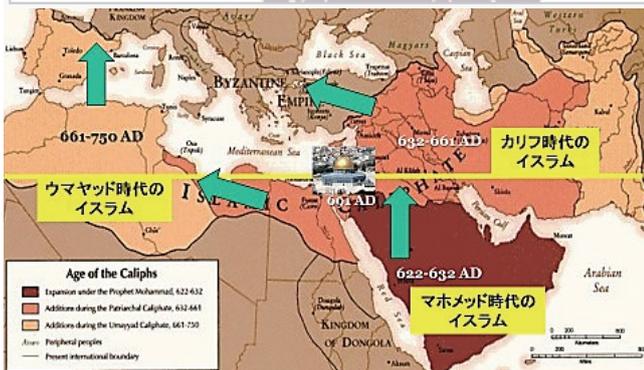
「終わりの時」ーヘブル語でエス・ケッツと言う。これは、ダニエル書以外、旧約聖書のどこにも用いられていない。ダニエル書に4回使われている。

Es- エスとは「**機会の時期**」神が行動なさるという意味。(Dr ファウラー「**二つの背教した勢力の再興**」p9)

Qets- ケッツとは「**終わり**」(何が切り取られる、切り離す)の意(同)。

この二つを一緒に使うとき(エス・ケッツ)、神が行動なさる直前の地球最後の**機会の時期**。ダニエル 8:17, 19「**終わりの時**」「**定められた終わりの時**」と使われている。

「北の王」「南の王」は 11:25-39 から引き続き、キリスト教法王教とイスラムである。終わりの時になって、南の王(イスラム)が北の王(法王教)に戦いを挑んでくる。ここで言う「南」は、ヘブル語で「ネゲブ」で「乾燥しきった」との意味。ある人は、南はエジプト、すなわち霊的に無神論=共産主義と説くが、ネゲブは、エジプト、リビア、(エドム、モアブ、アンモン)、パランの荒野、サウジアラビア等を含む地域であった。エジプトであるなら、40節でエジプトと書くはずであ



る。エジプトは43節に名指して出てくる。エジプトはヘブル語でミツライムと言ひ、ダニエルは、これらを使い分けている。

従って、南の王は、イシマエルの子孫イスラムーアラブ諸国と言えよう。

終わりの時になって、「南の王=イスラム諸国」が、「北の王=ローマ法王教」に戦いを仕掛けてくるとダニエルは今から2,500年前に預言していた。

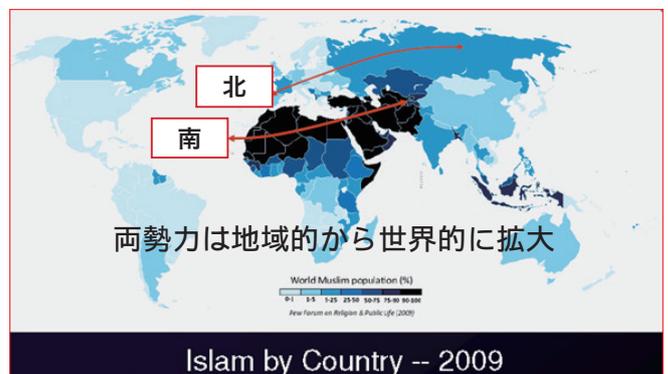
ダニエルの第四番目の幻(10-12)は、最後に神の民にどんなことが起こるかということに焦点が当てられている(ダニエル 10:14)。

2003年、イラク戦争を始めた当時の米国大統領ブッシュは、その戦争を十字軍になぞらえた。

「北の王=ローマ法王教」は、軍隊を持っていないので、パチカンの同盟国アメリカ、EU主導のNATO、あるいは「有志連合」は結束して「南の王=イスラム」と対決することが次の聖句に書かれている：

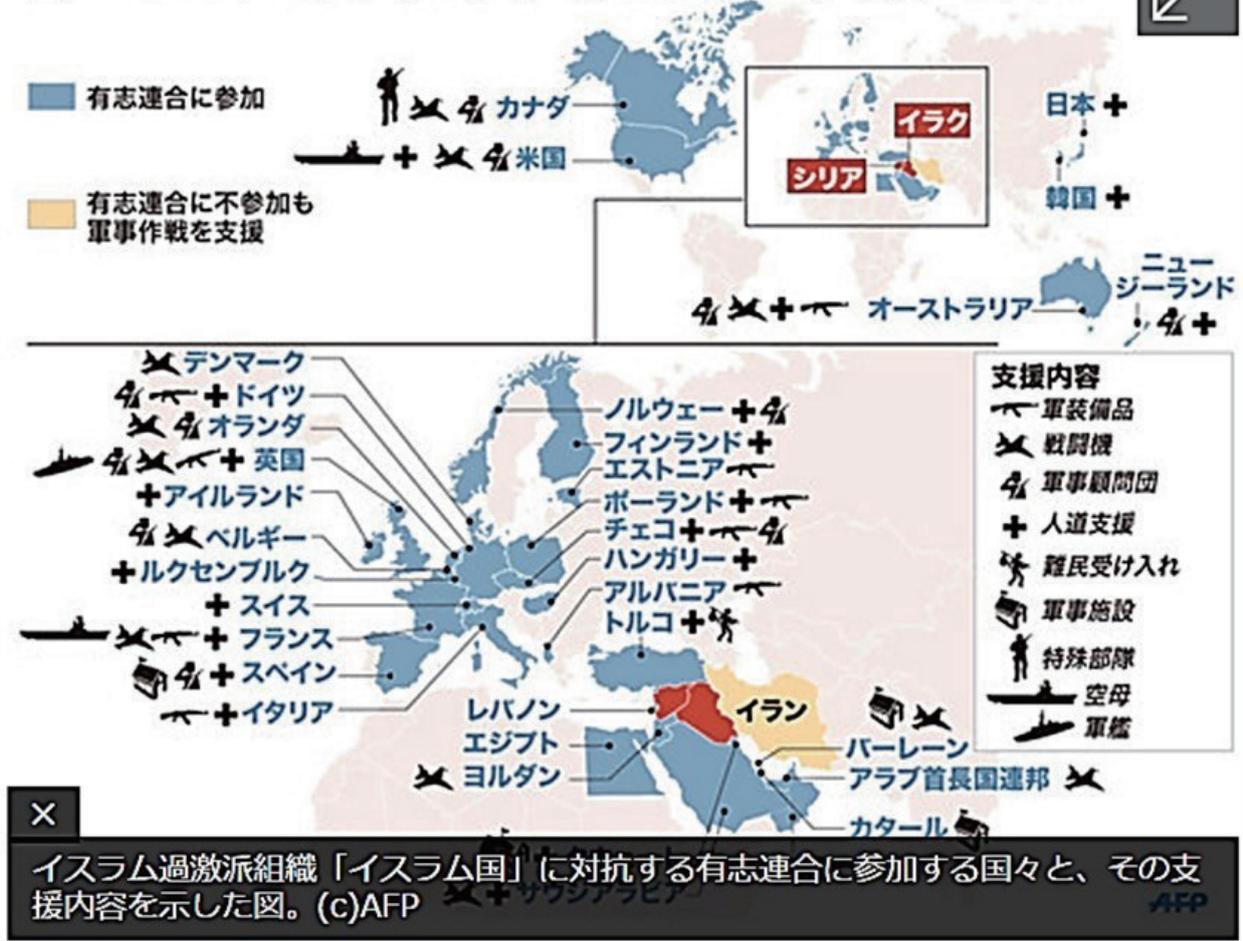
11:40 終りの時になって、南の王は彼と戦います。北の王は、戦車と騎兵と、多くの船をもって、つむじ風のように彼を攻め、国々にはいっていって、みなぎりあふれ、通り過ぎるでしょう。

「北の王」=ローマ法王教は、「戦車と騎兵と、多



くの船をもって、つむじ風のように彼を攻め」るのは、有志連合の軍隊を利用するのである。今まさに、世界を震撼させているのはこのテロ戦争である。空軍、海軍、陸軍が用いられる。どちらに軍配が上がる

対「イスラム国 (IS)」有志連合に参加する国々



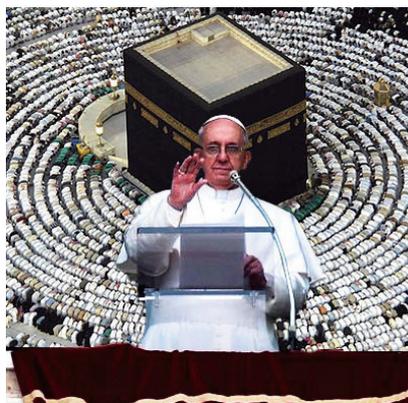
か、「北の王」=バチカン+有志連合国である。

イスラムとは言っても、①過激派と②穏健派がある。

過激派 IS に対しては軍事力をもってあたる。穏健派には、宗教連合策をもって、すでに仲良くなりつつある：

「それはさまざまな宗教の間で対話を強化するために重要です、そして私は特にイスラムとの対話について考えています」とローマ教皇はバチカンの外国の大使たちの前で演説で言っている。2013年3月26日。<http://www.nowtheendbegins.com/is-pope-francis-forming-an-alliance-with-islam/>

いったん、この激烈な戦いが本格化すると、「北の王」=バチカン+有志連合国が勝利することを「つむじ風のように彼（「南の王=イスラム」）を攻め、国々にはいって行って、みなぎりあふれ、通り過ぎるでしょう」と描写している。突風、竜巻のような速さで世界を制覇することを表している。国々を制覇して「新世界秩序」を構築する。



しかし、イスラム社会には①その支配から「彼の手から救われる、まぬがれる」者たちもあれば、②彼の支配下に陥る「従う」者たちもいる(41,43)。「美しい国にはいる」には、地理的に法王教がエルサレムを占拠するという人もいるが、十字架以後は、霊的に解釈して、現代の神の民であるとするなら、どういう者たちであろうか。昔はイスラエルが「美しい地」と旧約聖書、ダニエル書には

言われているが、現代霊的の民は黙示録にその回答を見出させるのではないだろうか。神の民がヨーロッパから迫害を逃れたプロテスタントアメリカを指すという人もいる。

黙示録 12:17 「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った」。

黙示録 13:3-4 全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い、また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」。

13章の海から上って来る獣は、ローマ法王教を指すことは、ダニエル7章と連結して理解できる。11節の「地から上って来る小羊のような角を持った獣」はプロテスタントアメリカを指す。米国は、パチカンとの同盟で、全世界に新世界政府—世界統一政府構築のために尽力することが分かる。

黙示録 16:14-6 「これら（龍と獣と偽預言者）は、しるしを行う悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであった。…三つの霊は、ヘブル語でハルマゲドンという所に、王たちを召集した」。

黙示録 17:13-14 「彼ら（10の角）は心をひとつにしている。そして、自分たちの力と権威とを獣に与える。彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る」。

「10の角」をヨーロッパ、EUと解する人もいる。または、10という全体数は、全世界の指導者と解する人もいる。

いずれにせよ、最後の戦いは「ハルマゲドンの戦い」であり、地理的な中東に限るのはおかしい。全世界的な神の民であることは明らかであろう。

ダニエル 11:43-45 には、最後の戦いが書いてある。それは、今までの戦いとは性質が違うものであることが上記の黙示録によって分かる。「彼は金銀の財宝と、エジプトのすべての宝物を支配し、リビヤびと、エチオピアびとは、彼のあとに従います」。全世界の政治、経済、宗教を支配する「新世界秩序」を構築したと思ったら、神が次のように介入なさる：

11:44 「しかし東と北からの知らせが彼（北の王＝ローマ法王教）を驚かし、彼（ローマ法王教）は多くの人を滅ぼし絶やそうと、大いなる怒りをもって出て行きます」。

11:45 彼は海と美しい聖山との間に、天幕の宮殿を設けるでしょう。しかし、彼（ローマ法王教）はついにその終りにいたり、彼を助ける者はないでしょう。

黙示録 18:1 「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくさ

れた」。

黙示録 17章にあるように、大淫婦＝大いなるバビロンが世界支配をしたかと思うと、神が介入なさるのである。詩篇 119:126 に次のように書いてある。「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です」。

世界最終のハルマゲドンの戦いの性質はどんなものであるのか：

「真理と誤謬の最後の大争闘は、長い間続いてきた神の律法に関する論争の最後の戦いにほかならない。われわれは今や、この戦い、すなわち、人のおきてと主の戒めとの間の、また、聖書の宗教と作り話や言い伝えの宗教との間の、戦いに入っているのである」大争闘下 344。

主の僕はこう言っている：

「世界は嵐と戦争と不和で満ちている。しかし一つの頭—ローマ法王権—の下で、人々は神の証人を装って、神に敵対するために一致するであろう。大いなる背教者によって、この連合は固められつつある」 7/182 (1902年)。

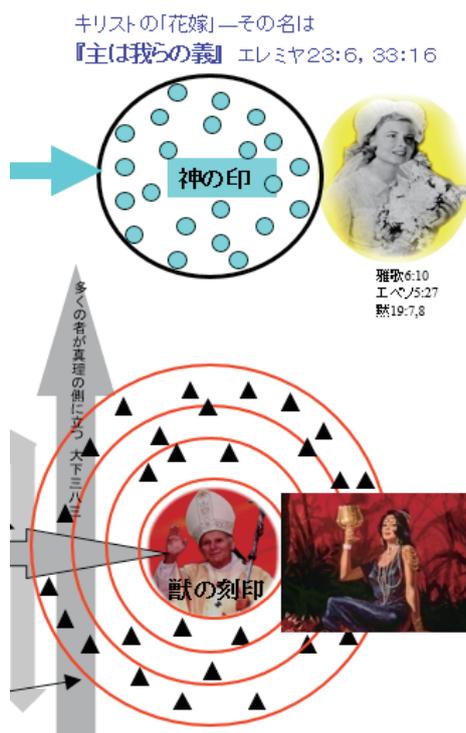
あらゆる悪の勢力に勝利する、神の戒めを守り、イエスのあかしを持つ「残りの子ら＝レムナント」について次のように描写されている：

「このしののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者はだれか」 雅歌 6:10。

世界最終のハルマゲドンの戦いは始まっているだろうか？ まだである。ローマ法王教の権威のしるしである日曜礼拝が全世界に強要される時から始まる。

ハルマゲドンの戦いが始まる前に、ダニエル 11:40 の「南の王＝イスラム」と「北の王」＝ローマ法王教とその同盟国との戦いがなされる。

闇の世の権力が神の民に戦いの矛先を向ける時が近づいている。



底いも知られぬ人の罪

金城 重博

序論：

讚美歌 262 番に次のように歌われています：

「十字架のうゑに われはあおく わがため悩める
神の御子を 妙にもとうとき かみの愛よ 底いも知られぬ ひとの罪よ」

この歌は、神の愛の高さ、深さ、広さが十字架に表されたと同様に、罪の深さも十字架に表されていると歌っています。

1. 我々はまだ罪の底知れぬ深さを理解していない。

ウエスレーは、「あなたが知っているよりもさらに底知れない悪の深さがある」と言いました。The Works of John Wesley, Vol. 9, Zondervan, pp462-464

E. G. ホワイトは「人間の心の邪悪さは理解されていない」MM 143 と言いました。

この文は人間の墮落がいかに深いものであるかを我々は理解していないことを言っています。これは、またみ使いが神の最後の教会、すなわちラオデキヤ教会に対して「あなたは…気がついていない」と言っていることを反映しているのではないのでしょうか。み使いは、ラオデキヤ教会に、自分たちの性質がどれほど深く墮落したものであるかを完全に理解することがどんなに重要であるかということを訴えています。自分たちの真の姿に気がつかないために、提供されている「純金」「白い衣」「目薬」の必要も感じません。そのままでは口から吐き出されるというのです。

ローマ人への手紙は、パウロが最も組織的に福音を解き明かしているところだと思います。第一章で、彼はこう言っています：「わたしは福音を恥としない。それは…救を得させる神の力である」1:16。

パウロは、福音とは何かを説明する（あるいは解明する）にあたって、人間の徹底的な墮落した状態をま

ず立証しています。それは人間が「救いを得させる神の力」が絶対に必要であることを認めるためです。全く他力本願なのです。ですから、パウロは福音を説くにあたって、創造者に背を向けた人間の思いは空しくなり、自らを知者と称する不信人の者たちの状態をこう言っています：

「すなわち、彼らは、あらゆる不義と悪と貪欲と悪意とにあふれ、ねたみと殺意と争いと詐欺と悪念とに満ち、また、ざん言する者、そしる者、神を憎む者、不遜な者、高慢な者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者となり、無知、不誠実、無情、無慈悲な者となっている」1:29-31。

しかし、パウロは、反逆的な改心しない人たちの状態を言ってから、さらに、ローマ2章に続けてクリスチャンと自称する者たちの心について述べています：

「だから、ああ、すべて人をさばく者よ。あなたには弁解の余地がない。あなたは、他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めている。さばくあなたも、同じことを行っているからである」2:1。

パウロが言わんとするところは「ユダヤ人」も「ギリシヤ人」もなら変わりはない、ということです。3章で、すべての人の普遍的な状態をこう言っています：

「すると、どうなるのか。わたしたちには何かまさったところがあるのか。絶対にない。ユダヤ人もギリシヤ人も、ことごとく罪の下にあることを、わたしたちはすでに指摘した。次のように書いてある、『義人はいない、ひとりもない。悟りのある人はいない、神を求める人はいない。すべての人は迷い出て、ことごとく無益なものになっている。善を行う者はいない、ひとりもない…』」3:9-12。

彼の言葉は大胆な暴言のように聞こえることでしょう。

福音は、確かにすばらしい良きおとずれです。が、まず最初に人間は悪い木であるということを宣言します。実が悪いばかりでなく、実が悪いのは木が悪いからであるということです。すべての人間は、罪人であ

る。行いが悪いというだけではなく、生まれながらの悪い性質があるということです。罪を犯すから罪人であるのではないのです。罪人であるから罪を犯すということです！

罪の行為すべてを止めるとき、罪がなくなると考える人は、罪とは何かを理解していないのです。すべての人は最初の一つの罪を犯す前に、罪人なのです。罪とは、ただ行為であるばかりでなく、我々の状態が罪なのです。その状態を我々は相続しているのです。「わたしたちは、律法は霊的なものであると知っている。しかし、わたしは肉につける者であって、罪の下に売られているのである」ローマ7:14。E. G. ホワイトは「子供たちが相続するのは罪という遺産である。罪が彼らを神から引き離したのである」と言っています（家庭の教育514）。

詩篇記者は言っています：「悪しき者は胎を出たときから、そむき去り、生まれ出た時から、あやまちを犯し、偽りを語る」詩篇58:3。

「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなった」ので、イエスは「だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」と言われたのではないのでしょうか（ヨハネ3:3）。

勿論、悪人についてはそう言えるが、義人についてはどうでしょうかという人がいると思います。真実は、我々はみな罪人であるということです。人間がいかに恐ろしいほど墮落した性質を持っているかについて、多くの聖書の証言があります：

ダビデ：「見よ、わたしは不義のなかに生まれました。わたしの母は罪のうちにわたしをみごもりました」詩篇51:5。

イザヤ：「われわれはみな汚れた人のようになり、われわれの正しい行いは、ことごとく汚れた衣のようである。われわれはみな木の葉のように枯れ、われわれの不義は風のようにわれわれを吹き去る」イザヤ64:6。

「…その頭はことごとく病み、その心は全く弱りはてている。足のうらから頭まで、完全なところがなく、傷と打ち傷と生傷ばかりだ。これを絞り出すものなく、包むものなく、油をもってやわらげるものもない」イザヤ1:5,6。

エレミヤ：「心はよるずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか」エレミヤ17:9。

パウロ：「肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないので

ある」ローマ8:7。

「…生まれながらの怒りの子であった」エペソ2:1-3

「わたしは、その罪人のかしらなのである」1テモテ1:15。

彼らは、別に謙遜して言ったわけではありません。

これが人間の状態であり、我々はみなこのような状態なのです。この事実は、ラオデキヤ教会の良心に強く焼き付けられなければなりません。今は、さまざまな統計を見て教会の功績をたたえる時ではありません。「最後まで忠実で真実であり続けるすべての者は、神のみ前にますます心のへりくだりがある」とE. G. ホワイトは言っています（MS15, 1888）。このような受け入れがたい真理は、箴言に次のように簡潔に述べられています：「水にうつせば顔と顔とが応じるように、人の心はその人をうつす」箴言27:19。池の水に見入ると、何が見えますか？自分の顔ですね！人の姿を見ると、何を見るでしょう。自分の心の姿です！まさかと思うかもしれませんが、神の言葉によるとこれは真実です。どういうことかということ、アドルフ・ヒトラーを見る時、彼の姿は我々自身の心を反映しているのではないのでしょうか。「他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めている。さばくあなたも、同じことを行っているからである」。

このような光で、聖書の歴史を見ると、登場する人物に我々自身の姿が映し出されていることに気づくでしょう。洪水前の人々の罪、古代イスラエルの強情な姿—彼らの不信と不服従、アッシリア人の残酷性、ユダヤ人の盲目的、霊的な誇り、シーザーの異常性欲、飲酒、道楽、法王たちの横柄傲慢さ、…これらすべてに我々自身の姿が反映されているのではないのでしょうか。機会と状況によって異なった罪が現れる罪の根が我々自身にあるのです。200年以上も前に生きていたジョン・ウエスレーが次のように言っています：

「それ（原罪）は、実質上、すべての罪がそこにある。それはすべての種である。機会があったら頭をもたげてくる。かつて存在した最も落ちぶれたものの会話にさえすべての罪が姿を現わしたことはなかった。しかし、あなたの性質を見よ。その根にすべての罪を見るであろう。そこにすべての不義の満ち満ちたもの—無神論、偶像礼拝、姦淫、殺人—を見るであろう。このうちの一つもあなたの心から現れていないであろうが、あなたが知っているよりももっと底知れない悪の深さがあるのである」。The Works of John Wesley, Vo1. 9, Zondervan, p462-464

このような霊的状态を父祖アダムから受け継ぎ、窮地の状態におかれているのです。アダムの肉体的、知的、道徳的能力の退化は徐々に起こりましたが、彼の

霊的墮落は突然に完全に起こりました。それを我々は受け継いできているのです。「人間が神の律法を犯した時、彼の性質は邪悪となり、サタンに敵対するのではなく、協調するようになった」大争闘下 243。

我々は生まれながら罪人でしょうか？ 律法を自分で犯した時点で罪人となるのでしょうか？

「原罪」という言葉は嫌悪される言葉ですが、避けて通れないことですので考えてみましょう。

「ウィキペディア」を見ますと、原罪について、カトリック、正教会、プロテスタントの中でもいろいろ違った考えがあるようです。SDAの中でもこの教理、用語について異なった考えがあり混乱と困惑があることを指摘して高橋義文先生は、よく端的にまとめていますので紹介します。

牧羊、1989年春季号 昭和59年第4期の教課の助け：

「原罪という言葉は、通常三つほどの意味で用いられているようです。一つは人類の最初の罪、すなわちアダム（とエバ）が禁断の木の実を取って食べ、神の命令にそむいた罪を指します。英語ではこれを『**原初の罪、最初の罪**』を意味するオリジナル・シン (original sin) と言いますが、これは元来アダムの罪を指します。

第二に、原罪は、このアダムの罪が後代の人間に転嫁されているということの意味です。アウグスティヌスはこの意味で原罪という語を用いています。彼によれば『**遺伝的な罪**』『**相続された罪**』を意味します。彼は特に、アダムとエバから**生殖作用を媒介として代々相続されてきた罪**を考えています。

第三は**人間の罪性の普遍性と執拗性**とを示す言葉として原罪が用いられています。…しかし、…罪の責任について、いわゆる**生物学的遺伝の観念**を用いてそれを説明することは**適当ではない**ということです。…**拒否**しなければなりません。…

しかし、その上でやはり、罪の転嫁ということは聖書にしたがって言わなければなりません。理屈に合った説明はできませんが、アダムの墮落後人間は神への離反の状況の中に生まれるに至ったこと、そしてその中で主体的に罪を犯してゆくこと、そしてそれは普遍的であること、その根はどうしてもアダムにまでさか上らなければならないほどに根強いこと—こうしたことを私どもは原罪として確認しておかなければならないと思います。」

「『**悪への傾向**』、『**罪への傾向**』…。これは恐らく、具体的な罪の行為以前の状態を指している表現であると思われる。……キリストには『**原罪**』はなかった

ということです。しかし、私には原罪があります。この違いは決定的です。」

「原罪」という言葉が偏見、つまづきを与えるので、私は「**生来の罪**」あるいは「**罪性**」という言葉を使った方がいいかと思います。

「**生来の罪 (inbred sin)** との格闘があり、外部の悪との戦いがある」RH11-29. 1887。

「サタンは罪の創始者である。…彼はアダムを罪に陥れることによって勝利した。このようにしてその源から人間の性質は腐敗した。それ以来、罪はその憎らしい働きを続け心から心へと広がっていった。すべての犯す罪は、原罪の反響である」レビュー・アンド・ヘラルド 1901, 4-16。

「両親は彼らが想像するよりももっと深刻な責任がある。子供たちが相続するのは罪という遺産である」家庭の教育 514。

「人の心の中には**生まれつきの利己主義と腐敗**があり、それは徹底的な訓練と厳しい抑制によってのみ克服されるものである」4T496。

「罪の故に彼〔アダム〕の子孫は、**生来の不従順の傾向**をもって生まれてきた」スタディバイブル新 207, 5BC1128。

「神の力によってのみ与えられる改変の過程がないならば、罪への初めから (original) の傾向がそのすべての勢力を持ったまま心に残って、新しい束縛を作り出して、人間のちからでは打ち破れない奴隷状態を課するのである」伝道上 260。

「我々の性質は墮落した」キリストへの道 81, 82。性質は邪悪となり、サタンと協調する精神は絶望的となった。大争闘下 243, 244 参照。

2. 罪の性質 (罪性) は回心した者にまだ残っている。

アダムが墮落した後、人は神と顔と顔を合わせて交わることはできなくなりました。もし、罪がただ外に現れる行為であるならば、なぜ、告白とゆるしで神との交わりに復帰できなかったのでしょうか。次の文は人間が墮落したときに、二つのことが起こったことを示しています：「**彼らの得た大いなる知恵**というのは**罪の知識と罪悪感 (Sense of guilt) だった**」(贖いの歴史 48) (生き残る人々 51)。罪悪感、告白とゆるしによって除かれました。しかし、罪の知識、罪性は残り、神との直接の交わりができなくなったのです。「**罪のない夫婦が、悪を知ることは、神のみこころではなかった**。神は、彼らに善を惜しみなく与えて、悪は、さし

ひかえておられた。それなのに、彼らは神の命令に反して、禁じられた木の実を食べてしまった。こうして彼らは、それを一生のあいだ食べ続け、悪の知識を持つことになる」あけぼの上 48。

アダムの中に植えつけられた悪の知識のゆえに、彼は神の栄光に耐えられなくなってしまいました。そして聖書の歴史に現れて来る偉大な聖なる人たちもそうでした。モーセは、神の背を見ることだけが許されたのでした。「しかし、あなたはわたしの顔を見ることはできない。わたしを見て、なお生きている人はないからである」(出エジプト 33:20)。ヨブは全き人と呼ばれていましたが、「わたしの目であなたを拝見いたします。それでわたしはみずから恨み、ちり灰の中で悔います」と言いました(ヨブ 42:5,6)。聖なる預言者イザヤは、「わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから」と叫びました(イザヤ 6:5)。ダニエルは、敵に脅かされながらも微動だにしない偉人でありましたが、キリストの幻を見た時「この大いなる幻を見たので、力が抜け去り、わが顔の輝きは恐ろしく変って、全く力がなくなった。わたしはその言葉の声を聞いたが、その言葉の声を聞いたとき、顔を伏せ、地にひれ伏して、深い眠りに陥った」と言いました(ダニエル 10:8,9)。愛の使徒と呼ばれたヨハネは、幻で天の聖所にイエスを見たとき死人のようになったと言いました。すべての義人たちは、人間の墮落した性質を知っていました。

しかし、原罪の問題は、ここまで引用した意味よりもっと深いようです(カトリックの言う原罪ではなく、宗教改革者が用いていた意味での原罪、罪性と言った方がいいのかもしれない)。証の書から見てみましょう:

「宗教儀式や祈り、讚美や悔悟の念から来る罪の告白は、香のように真の信徒から天の聖所へと上って行くが、人性という墮落した器を通してなされる。捧げられるこれらのものはあまりに汚れているため、血によって清められない限り、神にとって価値あるものとは決してなり得ない。上っていても汚れのない純潔なものではないので、すべて神の右に座しておられる仲保者の義によって、提示され清められない限り、神に受け入れられるものとはならない。地上の幕屋から立ち上る香はすべて、キリストの血という清めの滴でぬらされていなければならない」1SM 344。

聖書の言葉を読みましょう:

「善を行い、罪を犯さない正しい人は世にいない」伝道 7:20。

上記の引用文によると、罪を犯さない真実なクリスチャンはいないという意味ではなく、どんな良い愛の奉仕も罪であるということです。なぜ? 墮落した器を通してなされるので、イエスの清める血なしには無限に清い神の前に受け入れられないのです。良き業を誇るパリサイ的人間はちりに等しいのです!

信者であろうが未信者であろうが、我々はみな汚れた器にしか過ぎない人間なのです。

しかし、神の言葉は、大いなる悩みの時(ダニエル 12:1)に仲保者なくして立つ全く清められた聖なる集団が出現すると言っています。彼らは罪から全く清められていてキリスト再臨の栄光の前に立つ準備ができています。ということは、彼らの罪深い性質に何か大きな変化を経験しているはずで、人類史上かつてない変化を経験する人たちはどんな人々なのでしょう。罪深い腐敗した性質にどんな変化が起こるのでしょうか?

ここまで原罪(宗教改革者が用いた意味)の問題を考えてきました。高橋義文氏は、キリストには罪への傾向がなかったが、我々人類には存在することを指摘した後でこう言っています:「私どもには原罪があります。この違いは決定的です」と。この人間に一改心した者、改心しない者にも6千年間もしがみつてきた、靈的墮落、腐敗をラオデキヤは理解する必要があります。さもなければ「聖所のきよめ」の意味を理解することは、到底不可能でしょう。

問題は、それはどのように、いつ、どこで処理され、除去されるのかということです。

ダニエル書全体の焦点は、この墮落した靈的な性質の完全な回復であります。いや、それが、実は聖書のテーマなのです。創世記 3:15 の約束の成就です。イエス・キリストがこの地上に生まれ、ご自分の命を与えられたのは、この人間性の回復なのです。すべての聖なる預言者たちも、相続されている墮落した、人間性の下でうめき苦しむことからの解放、除去を望んでいたのです。しかし、それはどのように、いつ、どこでなされるのでしょうか? ダニエルは聞きました「…聖所とその衆群がわたされて、足の下に踏みつけられることについて、幻にあらわれたことは、いつまでだろうか」と(ダニ 8:13)。

幾世紀もの間、聖徒たちはこの原罪の問題に悩みながらそれがどのように、いつ、どこで取り除かれるのか知りませんでした。ルターもウエスレーも知りませんでした。その答えは彼らに与えられていませんでした。その問題は彼らに死ぬまで付きまとうと思っていました。過去の聖徒たちもそうでした。彼らは人間の墮落した性質と死ぬまで戦いながら、イエス・キリス

トの贖罪の犠牲と仲保の働きによって解決されることを信じて安んじて眠りにつきました。

しかし、それは果てしなく続くのでしょうか？ 決してそうではありません！ 創世記 3:15 には必ず勝利の時が来て戦いが止む時が来ると約束されています。これは宗教改革者たちの時代にはまだ、現代の真理ではありませんでした。しかし、今日、主イエスの再臨をまじかに迎えようとしている我々にとっては現代の真理です。

神は、この終わりの時代に、「女の残りの子ら＝レムナント」を起こされます。そして黙示録 14 章の三重の使命という特別なメッセージをお与えになりました。この三つの質問—どのよう、いつ、どこで—を解決する使命です。三重の使命（黙示録 14:6-12）は永遠の福音と呼ばれています。これこそがこの問題に解答を与える良きおとずれであるのです。我々の教会が存在する理由はここにあるのです！

では、今日の神の民の根本的な問題を考えてみましょう：

3. 原罪（罪性）の除去、それはどのように、いつ、どこで？

罪の状態が相続されることに加えて、犯した罪の行為のことも考慮に入れなければなりません。実際に犯した罪は魂に傷跡を残します。それも取り除かれなければなりません。二つだけ引用します：

「ユダの罪は、鉄の筆、金剛石のとがりをもってしるされ、彼らの心の碑と、祭壇の角に彫りつけられている」エレミヤ 17:1。

「すべての不純な思いは魂をけがし、道徳観念をそこない、聖霊の印象をかき消してしまう。それは霊的な眼をくもらせるので、人々は神を見ることができない。主は、悔い改める罪人をおゆるしになるだろうし、また実際おゆるしになるが、しかしゆるされても、その魂はそこなわれている」2 希望 8。

罪深い性質の除去に関して、今日アドベンチストに基本的に三つの見解があります：

- 第一の考えは、新生した時に、この罪の除去が起こるといえるものです。そう考える人は、2 コリント 5:17 を引用します。「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである」。
- 第二の考えは、聖化の過程において十分に時間が与えられて徐々に除去されるというものです。

- 第三の考えは、最も普及しているものです。つまり、キリストがおいでになり、「卑しい体」が栄化される時まで、罪の完全な除去は起こらないというものです。そう考える人は、ピリピ 3:21 や 1 コリント 15:51-54 を引用します。

第一の考え方は、今まで述べてきたことを見ると明らかに誤っていることが分かります。確かに新生の経験は大きな変化ですが、罪の性質がすべての信者に残っている事実は否めません。

「地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る」創世記 3:17。

E. G. ホワイトのこの聖句に関する注解は興味深いものです。

「…彼ら（アダムとエバ）は神の命令に反して、禁じられた木の実を食べてしまった。こうして彼らは、それを一生のあいだ食べ続け、悪の知識を持つことになる」あけぼの上 48。

「善悪を知る木の実を食べた結果は、すべての人間の経験にあらわれている。人の性質には、悪への傾向、すなわち自力だけでは抵抗し得ない 1 つの力が働いている。この力に抵抗し、魂の奥底に唯一の価値を感じている理想を達成するためには、ただ 1 つの力に助けを求めてすぎるよりほかに道はない。その力とはキリストである。この力と協力することが、人にとって最大の必要である」あけぼの上 21。

また、第一の考え方が間違っていることは、次の引用にも見ることが出来ます：

「使徒にしても、預言者にしても、自分には罪がないと主張した者は 1 人もいない。神に最も近く生活した人、知りつつ罪を犯すよりは、むしろ生命を犠牲にした人、また、神からの特別の光と力とを与えられた人は、みな、自分たちの性質の罪深いことを告白している。彼らは、肉に信頼をおかず、自分たちの義を誇らず、キリストの義に絶対の信頼をおいた。キリストをながめる者もみな、そうなるのである」実物教訓 140。

第一の考えが間違っていることは、先に挙げた伝道 7:20 と 1SM 344 の引用文から明らかだと思います。信者のどんな善行であっても、腐敗した通路のゆえに汚れているとするなら、罪深い性質は除去されていないはず。このような考えは、宗教改革者たちが建てた真理の柱を突き崩すこととなります。マーチン・ルターとジョン・ウエスレーはこのことをよく知っていました。ウエスレーは簡潔に「罪は支配しないが、残っている」と言った (Wesley's Sermons, p34)。

第二の考え方を考察しましょう。聖化の過程において我々の悪への傾向は確かに弱められていきます。神の恵みは、我々の熱心な肉の性質に対する戦いによって、生来の罪の支配力は弱くなっていきます。しかし、全生涯の聖化の過程においても罪深い性質を完全に破壊するには十分ではありません。次の引用文は、十分な時間が与えられても、なお成し得ないことが分かります：

「人は生きた頭であられるキリストに向かって成長する。それは一瞬の働きでなく、一生の働きである。神の生命に毎日に成長するが、その人の恩恵期間が閉じるまでは、キリストにあって完全なみ像に到達しないのである」4T 367。

「イエスに近づけば近づくほど、ますます欠点が多く見えてきます。それは自分の目が開けて明らかになり、イエスの完全な性質に比べて、自分の不完全さが大きくはっきりと見えるからです」キリストへの道 86。

聖化の過程（プロセス）は、ますます我々の罪深さとキリストの必要を示すのであって、清くなったという意識を与えるものではありません。一生涯の聖化の過程はクリスチャン品性を発達させるのが目的で、罪深い性質を除去することはしません。罪深い性質が残されているというのは、神の恵みをもっと深く味わい知るためなのです。もし、罪深い性質が取り除かれたら、品性を発達させる手段が失われることになるのです。使徒パウロは、キリストに近づけば近づくほど、自分の罪深さを認識して「わたしは罪人の頭である」と叫んだのです。人類が墮落して以来、品性は戦いを通して発達されるのです。「地はあなたのためにのろわれた」のです。「生来の罪との格闘があり、外部の悪との戦いがある」RH11-29. 1887。

「義であると同時にまだ不義である」とルターは言いました。罪深い性質が生まれ変わった信者に残されているということは、信者に働く神の力を否定しているではありません。神にとってそれを取り除くことなど問題ではありません。お出来になります。しかし、あえてそれを我々の心に残されているのです。ルターは「恵みの行使」のために残されていると言っています（Luther; Lectures on Roman, p. 212）。これは、神の知恵によって選ばれた品性発達の方法です。

「使徒や預言者たちの中には、だれも罪がないと主張した者はいない。神に最も近く生きた人々、知っていて悪い行ないをするよりはいのちを犠牲にしようとする人々、神が聖なる光と権能をもって称賛した人々は、自分たちの性質の罪深さを告白してきた。キリストを見る者たちはみな、このようになる。イエスに近づけば近づくほど、そしてキリストのご品性の純潔さが更にはっきり認められるようになればなるほど、ま

すす罪のひどい罪深さを明らかに見るようになり、われわれ自身を高める気持ちはますます消えていく。魂は神を求めて絶えず手を伸ばし、罪の悲痛な告白を絶えず、まじめにささげて、神のみ前に心を謙虚にする」患難下 264。ピリピ 3:13 参照。

では、第三の見解はどうでしょうか？ つまり、罪の除去はキリストの再臨の時に起こるという考え方で、これは、どうも罪を原罪＝罪性＝生来の罪という定義から来ているようです。罪の行為はなくなるが、罪の根は再臨まで残るので、罪なき状態は人間である限り、再臨前は不可能であると結論付けるのです。ほんとうでしょうか？ 確かに、この「朽ちゆく」「死ぬ」「卑しい体」は「朽ちない」「死なない者」に、「ご自身の栄光のからだと同じかたちに変え」られるという大変化が起こる時は再臨の時です。しかし、罪深い性質はどうでしょうか？ キリストの再臨の時に道徳的変化が起こるのでしょうか？ 次の引用文は、この考えがいかにか危険な思想であるかを暴露しています：

「キリストがおいでになるとき、我々の品性は変えられない。これらの汚れた肉体は変えられ、キリストの輝かしいお体のように形作られるであろう。しかし、その時、我々の内に道徳的変化はおこらないのである」RH 1888/8/7。

「キリストがおいでになる時、我々の卑しい体は変えられ、彼の輝かしい体のようにされる。しかし、その卑しい品性は、その時、清くされることはない。品性の改変は、彼がおいでになる前に起こるのである。我々の性質は純潔で清くしなければならない。我々の魂にご自分のみ像が反映されるのを主が喜びをもってごらんになるために、我々はキリストの心を持たなければならない」OHC 278。

「キリストがおいでになるとき、我々の品性は変えられない。それはただ、品性をもはや変えられないように、永遠に揺るがない者にするだけである」5 T466。

「キリストが来られる時(再臨)、我々の罪を清め、我々から品性の欠点を取り除くことはなされない。…彼らの欠点を取り除いて清い品性を与えるどんな働きもなされない。清めるお方は罪と腐敗を取り除くご自分の精練の働きをなさるお仕事にたずさわれない。これはすべてこの恩恵期間になされなければならない。この働きは今、我々のためになされなければならない」2T 355。

「今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあって完全になることを求めなければならない。…サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきもみつ

けることができなかつた。神のみ子は天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼（神のみ子）の中にはなかつた。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである」大争闘下 397。

「わたしたちの贖罪のために要求された犠牲の無限の価値は罪が恐るべき悪であることを示している。罪によって人間の全身が障害をきたし、頭脳が乱れ、想像力が腐敗する。罪が心の能力を低下させ、外部からの誘惑に反応するものが心の中にあるため、人間は知らず知らず、悪に向かうのである」ミニストリー 433。

使徒パウロは、ヨハネと同じように上記の言述を次のように強調しています：

「キリストもまた、多くの人の罪を負うために、一度だけご自身をささげられた後、彼を待ち望んでいる人々に、罪を負うためではなしに（罪を処理するためではなく N.E.B）二度目に現れて、救を与えられるのである」ヘブル 9:28。

「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」黙示録 22:12。

罪深い性質は、キリストの再臨の時に除去されないということは、上述の証拠で十分に示されたと思います。

三つの考え方で、これは最も残念な考え方だと思われる。第一の考え方は、宗教改革者たちの考えを突き崩すものであり、第二、第三の考え方はアドベンティズムを突き崩す考え方です。

では、改心の時にでもなく、聖化の時にでもなく、再臨の時に罪の性質=罪性が除去されないとすれば、どのように、いつ、どこで罪性の除去がなされるのでしょうか。

先に引用した 2T 355 の文を見てみましょう。

「清めるお方は罪と腐敗を取り除くご自分の精錬の働きをなさるお仕事にたずさわれない」。この働き、預言者マラキが言っている、主が「銀をふきわけて清める者のように座す」というのはどこでいつなされるのですか？

「……またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる。

その来る日には、だれが耐え得よう。そのあらわれる時には、だれが立ち得よう。彼は金をふきわける者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである。

彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる」マラキ 3:1-3。

この聖句は、いつの事件のことですか？この事件は、調査審判すなわち天の聖所の清めの事だと、E.G. ホワイトははっきり言っています：

「ダニエル書 8:14 に示されているところの、キリストがわれわれの大祭司として、聖所を清めるために至聖所に来られるということ、ダニエル書 7:13 に提示されている、人の子が日の老いたる者のもとに来るということ、そしてマラキが預言した主がその宮に来られるということ、これらはみな、同じできごとの描写である。そして、これはまた、キリストがマタイによる福音書 25 章の十人のおとめのたとえの中で語られた、婚宴の席への花婿の到着ということによっても表わされている」大争闘下 142。

それは、天の聖所で、生ける者のさばきの時に起こるのであります。その時、働きが成し遂げられるのです！その時、罪深い性質=罪性は除去されるのです！このメッセージこそ世に伝えるべきもので、このために「残りの民=レムナント」を起されるのです！これが三天使の使命なのです！三天使はどこに人々の注意を向けさせるのでしょうか？

「第三の天使は、「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」（黙示録 14:12）と言って、メッセージを終わっている。彼は、この言葉を繰り返した時に、天の聖所を指さした。このメッセージを信じるすべての者の心は、至聖所に向けられる。イエスはそこで箱の前に立って、恵みがお与えられているすべての人々と、知らずして神の戒めを破った人々のために最後の仲保をしておられるのである。この贖罪は、生きている義人とともに、死んだ義人のためにも行われる。これは、キリストを信じて死んだすべての人を含んでいるが、彼らは神の戒めに関する光を受けなかつたために、知らずして戒めを破って罪を犯したのである。わたしは、第三の天使が、上の方を指さして、失望した人々に、天の聖所の至聖所への道を示しているのを見た」初代文集 414-415。

もう一度マラキ 3:1-3 を注意深く見ましょう： 銀を拭き分ける者のように、その宮に来られる時、彼は何をなさるのですか？「彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める」。誰を清めるのですか？レビの子孫です。ご自分の民のことです！「…彼の仲保の働きによって恵みにあずかるすべての者のために最後の贖いをなし、こうして、聖所をお清めになるのであった」初代

文集 413。この最後の贖いは、民の清めと関係がありますか？ 天の記録の書から罪を清めるだけですか？ レビの子孫を清めるのですね。恵みにあずかるすべての者が最後の贖い、清めに含まれています。贖いの日に何がなされるかモーセは何と言っていますか？

「この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである」16:30。

何が清められるのですか？ 聖所という建物？ 「あなたがたを清める」のです。民の清めです！ しかし、この清めは、天の書物にある単なる記録を清める以上のことを言っています。他にどこに記録がありますか？

「ユダの罪は、鉄の筆、金剛石のとがりをもってしるされ、彼らの心の碑と、祭壇の角に彫りつけられている」エレミヤ 17:1。

「すべての失敗、すべてのあやまち、重要でないと思われるかもしれないが、その生涯に傷跡を残し、天の記録にシミを残す」OHC 227。

罪は二か所に記録されます。罪が清められるというときに、この二か所から清められるということは論理的ではないでしょうか？ 罪深い性質＝罪性の清め、除去は回心の時に、日毎の聖化の過程において、キリストの再臨の時ではなく、至聖所での清めの時になされるのです。そのとき、魂の宮が清められるのです。これは、「違った、異なった教え」でしょうか？ 聖書は、我々が生ける神の宮と言っています（1 コリント 3:16；6:19；2 コリント 6:16）。この驚くべき清めについてゼカリヤ 3:1-4 にヨシュアと天使の幻として描写されています。E. G. ホワイトはこの幻を注解して次のように言っています：

「ヨシュアとみ使いに関するゼカリヤの幻は、贖罪の大いなる日の、最後の場面における神の民の経験に、特別に当てはまる。その時、残りの教会は大きな試練と苦悩に陥る。神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持っている者に対して、龍とその軍勢は激しい怒りを発する。サタンは世界を自分の家来だと思っている。彼は多くの自称キリスト者たちさえ支配してしまった。しかしここに、小さい群れが彼の主権に抵抗しているのである。もしサタンが、彼らを地上から一掃することができるならば、彼の勝利は完璧となる。サタンは異教諸国を動かしてイスラエルを滅ぼそうとしたように、近い将来、地上の邪悪な国々を扇動して、神の民を滅ぼそうとするのである。人々は神の律法に背いて、人間の布告に服従するように要求されるのである。……

神の民が神の前で心を悩まし、心が純潔になることを嘆願するときに、『彼の汚れた衣を脱がせなさい』

という命令が出される。そして、『見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう』という励ましの言葉が語られる（ゼカリヤ 3:4）。キリストの義というしみのない衣が、試練と誘惑に耐えた忠実な神の民に着せられる。さげすまれた残りの民は栄光の衣を着せられ、世俗の腐敗に二度と汚されることはないのである。彼らの名は小羊の命の書に書き留められて、各時代の忠実な者の中に加えられるのである。彼らは、欺瞞者の策略に抵抗した。彼らは龍がほえても、忠誠を失わなかった。今や彼らは、誘惑者の計略から、永遠に安全なものとなった。彼らの罪は、罪の創始者の上に移された。『清い帽子』が彼らの頭にかぶせられた。

サタンが告発をしていたときに、目には見えないが、聖天使たちがあちこち行きめぐって、忠実な人々に生ける神の印を押ししていた」国下 193-196。

「心が純潔になることを嘆願する」者たちは、すでに義認、聖化の過程で罪を告白し、勝利してきた人たちです。どうしてなお汚れた衣を着ているのでしょうか。罪性と、罪の記録が残っているからです。

「こうして、新しい契約が完全に成就する。『わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない。』『主は言われる、その日その時には、イスラエルのとがを探しても見当らず、ユダの罪を探してもない』（エレミヤ 31:34、50:20）。『その日、主の枝は麗しく栄え、地の産物はイスラエルの生き残った者の誇、また栄光となる。そして……シオンに残るもの、エルサレムにとどまる者、すべてエルサレムにあつて、生命の書にしるされた者は聖なる者となえられる』（イザヤ 4:2,3)」大争闘 217。

神のさばきは、何という栄光の御業でしょう！ ここで、いつ、どのように罪深い性質＝罪性は除去されますか？ さばきにおいてです！ イエス・キリストが裁きの座においてご自分の民のために立って擁護なさるのです。民のために最後の贖い＝罪の除去をなさるのです。天で主イエスが我々の罪の除去をなさる時、後の雨の聖霊が我々の心を清め、完全にしますのです。天の法廷に信仰によって入り、自首するとき、仲保者イエスは我々のために最後の贖いをなさるのです。E. G. ホワイトはこう言っています：

「わたしは武具をまとった人々が力強く真理を語るのを聞いた。それは効果的であった。…わたしは、何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。『それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大いなる叫び』であると天使は言った」初代文集 440。

これこそ三天使の使命の神髄であり、永遠の福音で

はないでしょうか。さばきは永遠の福音なのです。人間の心に神の恵みの業が完成される！ 何という栄えあるみ業でしょう！

「第三天使の使命は理解されないであろう。全地を神の栄光で照らす光は、前進する栄光の中に歩むことを拒む者たちから、偽りの光と呼ばれるであろう」 RH1890, 5-27。

1. すべての人、罪性を持って生まれてくる。「罪への傾向」



2. 罪を犯すと記録される。
天にも、人の心にも記録される。



3. 罪を意識するようになると罪責が生ずる。良心のとがめを感じる。



4. 悔い改めて告白すると良心は洗われて、平安。ヘブル10:22。しかし、「義であり、同時に不義」の状態、なお自我との戦い



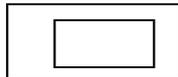
5. 最後のあがない＝罪の除去
天と心の記録が消される。「もろもろの罪から清められる」
後の雨、神の印



(品性完成、なお品性発達は続く)、
神の栄光、品性、律法を擁護する

6. 栄化

キリストの再臨の時、不朽の体に変えられる。罪は処理されない。品性、性質は変えられない。



神学上の混乱をきたす見解でもって、不健全な教えのかすを食しているときではありません。三天使の使命が我々の伝えるべき使命です。それは、人々を天の至聖所における最後の贖いの働き＝罪の除去に向けなければなりません。罪深い性質＝罪性から清められて、エデンの園で失った「以前の主権」が回復される時が来ているのです（ミカ 4:8）。

アドベンティズムは、プロテスタントの宗教改革を完成する働きが託されているのです。

ウェスレーは言いました：

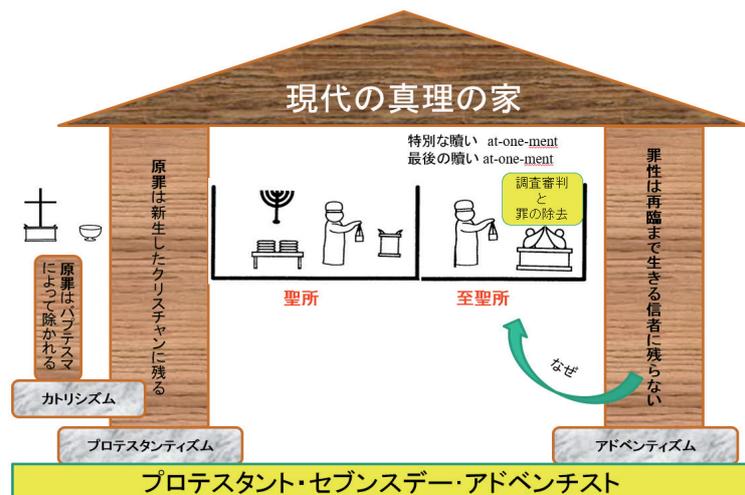
「信者に罪がないとか、肉の心、背教の傾向がないという立場は、神の言葉に、またその子らの経験に反する。…」

「キリストは罪が支配するところを支配することは確かにできないし、一つの罪でも許されている限り彼は支配なさらない。しかし、すべての罪と戦っているすべての信者の心におられ、お住みになる。たといそれが聖所の清めに従ってまだ清められていなくとも」。

「…罪は支配しないが、しかし、それは存在する」
John Wesley, Wesley's Sermons, p12, 13, 21, 34.

「聖所の清め」がいつなのか、どんなに素晴らしい神の恵みのみ業であるかを世に知らせるために、セブンスデー・アドベンチストが起こされたのです。

天の至聖所の最後のあがない＝罪の除去こそ、再臨信仰の基礎であり、土台です。至聖所で最後のあがない (final at-one-ment)、すなわち婚姻が終わったら、小羊の婚宴に招待されるのです。



INFORMATION

～お知らせ～

デイヴィッド・ミラーさん家族がアメリカに帰られたので売りに出しています。関心のある方は、下記に直接連絡してください。

連絡先：greenmint7@hotmail.com

「神の戒めを守る民として、我々は都会を出るべきである。エノクがしたように、都会の中で働くべきであるが、その中に居住してはならない」伝道 78, 79

「神の民がたえずざわついている混乱した都会に住みつくことは神のみこころではない。あわただしさや騒音はからだの全組織を弱めるから、子供たちがそうしたものから免れるようにしなければならない」アドベンチスト・ホーム 141

※京都府下田舎の家、土地500坪、2階建て木造家屋と2階建てガレージ（上に住居スペース）、物置など。

— 京都の田舎の物件 —



御業完成の鍵

及川 吉四郎

※マタイ 24:3 またオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、『どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか』。

世の終わり、キリストの再臨はいつ来るのだろうか。十字架で命を落としてまでも創造主が、『わたしはまた来る』との約束を信じる再臨信者が真剣に問わなければならない時が来ている。

最近、私は、もう91才にもなられる及川 吉四郎牧師の『日本にキリスト教が広まらない根源的理由』という記事を読んで深い感動を覚えた。

いつ日本伝道の完結を見るのか。この記事は、日本伝道ばかりでなく、世界伝道完結にもつながる鍵をも与えてくれるものだ痛感した。キリスト信者に一読して頂きたい記事である。記事全文は、無料で提供している。(……)と中略しているところに重要な興味深い文献証拠が挙げられているが、この紙面では抜粋して紹介させていただきたい。及川牧師の論理性をつかむためにぜひ読んで頂きたい。編集者。

はじめに

日本にキリスト教が伝えられて500年、もちろんこれは旧教だが、新教が伝えられてからでも150年になる。ところが、お隣の国韓国ではクリスチャンの人口比が30%、共産主義の国中国でさえも、5%から10%という。ところが日本はどうか、戦時中はともかくとして、戦後70年もたつというのに、わずか1%台の状態が続いたままである。

これはいったいどうしたことなのであろう。これについては、これまで多くの人によって、いろいろな理由が指摘されてきた。……

そんなわけで、なんでも日基督教団の場合、これはたしか、聖日礼拝の出席者数かと思われるが、

1976年 74,000人

1996年 24,000人

2008年 17,000人

と減少傾向にあるという。(ただし、聖霊派のある教会だけは教勢がのびているとのこと)

以上が日基督教団の実情という。

……

それにしても、日本の伝道がなぜ1パーセントどまりなのか？ これまで、歴史的要素・文化的要因などいろいろ指摘されてきた。たしかに、それもあろう。

ここで特に注目したいのは、**伝道地としての地盤の問題**である。地質・土質といってもよいかもしれない。

古屋氏は信者の数が10%になれば、その後は急増する。かけ算式・加速度的に増加拡大するといわれる。確かにそうであろう。だが現実問題として、1%をどうやって10%にもっていくかである。この間の空隙を、何を持ってどうやって埋めるかが問題なのである。

これについて、わたしが特に強く感じているのは、民衆の伝統的意識についてである。言い換えれば、伝道地としての地盤の問題である。

伝道地としての地盤・地質とは何かといえば、日本人の場合、それは**民衆の神観念の問題**にほかならない。

日本の伝道が困難な理由として、これまで日本文化の特殊性がしばしば論議されてきたが、しかしわたしはこれについて、まさに日本人の神観念に問題があると考える。

日本人の信仰の対象は何か、それは**神道の神、仏教の仏、キリスト教の神**などであるが、これらは民衆の間では何の区別もなく、**同質同等のもののように扱われ、ごっちゃまぜになっている。チャンポン神とでもいおうか。**

このことが示しているように、もともと日本人の宗教心の中には、**超越者・絶対者に対する神観念**というものがかたくなに存在しない。**これが問題なのである。**

神認識・神観念の正しい理解が必要

いったい日本の神と、仏教の仏と、キリスト教の神と、どこがどう違うのか。これを明確にすることが大前提とならねばならないとわたしは思う。そこで、これはわれわれクリスチャンには、あまりにもわかりきったことがらではあるが、ここで聖書教理の基礎的な問題を再確認してみる必要がある。

そもそも宇宙という存在の根源的成り立ちはどのようなものなのか。それはいうまでもなく、創造主と被造物とから成るものであって、この両者の関係と区別とを明確に認識することがきわめて重要である。

創造者は超越的絶対者、永遠者、無限者、普遍者、唯一者、全知全能者である。

これに対して、被造物は相対的存在、有限的存在であり、それゆえに生存は条件付きなのである。

創造主は、存在の第一原理であり、『有りて有るもの』、すなわち永遠者であり、命の源なのである。

これに対し、被造物は造られたもの、生かされているものであって、自立自存の存在ではない。したがって、造り主を離れては存在できない。

ではいったい、西欧の神観念と、その他の国々、特に島国の日本の神観念はどう違うのか。より具体的に、キリスト教の神と、日本人の神観念はどこがどのように違うのか。またキリスト教の神と仏教の仏とは、どのような違いがあるのか。これを精査吟味し、その相違を明らかにすることが、まずもって必要なのである。これを明らかにすることこそが、布教においては先決の問題なのではなからうか。

 ここから及川先生は、日本神道の問題、仏教の仏の問題、キリスト教のゴッドを日本語の『神』『カミ』『天主』『デウス』と訳することの問題に触れておられる。

そして、これがじつは、日本にキリスト教が広まるのを妨げている大きな障害となっているのである。

ところで、神道の神は死者（人）、仏教の仏は生者（悟った人、ただし日本では死人をも含む）、いずれにしても人が神なのである。

この場合、神道の神と仏教の仏を混同していることは、まだ見逃がしうとしても、キリスト教の神と神道の神を同じにしてしまったこと、それに仏教の仏までも、キリスト教の神と同等に扱い『神仏』と呼ばせていること、これはなんとしても放置できない。重大なあやまりと言わざるをえないように思われるから

である。

西洋人の神観念は、創造主と被造物とを峻別する、いわゆる『神人懸隔教』であるのに対して、日本人の神観念は『神人同格教』なのである。

そういうわけで、西洋の神観念と日本の神観念には、天と地の相違がある。日本人にはこの絶対者に対する認識が、ほとんど皆無と言ってよいのである。

神の権威に対する畏敬と恭順の念

宗教において、基本的に大事なことは、権威の問題である。

維新前、水戸黄門の権威は大変なものであった。『徳川の紋章』の印籠が、絶対的な権威として幅を利かせ、ものを言っていたのである。

たとえば、悪代官が良民を苦しめている。そこを通りかかった光国公が仲裁に入ろうとする。『何だ、くそ爺、よけいな口出しをするでない』と怒鳴る悪代官に、腰に下げた印籠を突き出して『お前にはこれが見えんのか！』と、一喝すると悪代官は『ハッ、ハハッ』と、地面に平つくばって恭順する。これで一件落着となる。

これは徳川幕府が天下を治めていた時代のことであるが、維新後日本は天皇を神とした。これが日本国民にとっての最高権威であった。それ以外に、より高い権威があることなど、誰一人考えても見なかったのである。その権威のシンボルは、菊花の御紋章であった。

だが聖書の神は、宇宙における至上最高の『絶対的権威』なのである。

「キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿にされた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで従順であられた。それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜った。それは、イエスの御名によって天上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、また、あらゆる舌が、『イエス・キリストは主である』と告白して、栄光を父なる神に帰するためである」（ピリピ2:6-11）。

……

日本における伝道戦略の要（かなめ）

ところで、『宗教のない信仰』また『信仰のない宗教』これは宗教というよりは習俗というべきなのかもしれ

ないが、こうした似て非なる宗教また信仰から脱却させるためにはどうしたらいいのか、これが日本伝道にとっての最大の課題であるといつてよいであろう。

この日本人に伝道するには、一応次の2つのアプローチの仕方が考えられるであろう。

- 1、キリスト教の神ゴッドを、唯一絶対者として説く。それによって、その他の神は信仰や崇拝の対象ではないことをわからせることである。

だがそれは難しい。なぜ？日本人には超越的絶対者の存在についての知識も観念もないからである。

- 2、そこで、これとは逆の方法、すなわちカミもホトケも尊崇や信仰の対象ではないことを分らせることが先かもしれない。このカミもホトケもどちらも人であって、神ではないことを説得することが必要であり、それが分かれば、聖書のゴッドこそ、真の信仰の対象であることがおのずと明白になるはずではないか。

伝道の戦術としては、これの二者択一しかないわけだが、しかしこれは、鶏が先か卵が先かの循環論に陥る可能性がないではない。そうなったら、もうニッチもサッチもいなくなってしまう。人間的にはもう完全にお手上げの状態になりかねない。

いずれにしても、遠藤周作氏のいう泥沼的土壌である日本人の神観念を啓蒙するためには時間がかかる。即効的結果は期待できぬ。ここに日本伝道のジレンマがある。

けれども時間は残されていない。どうしたらいいのか。ここは突貫工事以外ないのでは？それとも特攻隊的伝道法、肉弾戦術で行くほかないということなのであるか。

もちろん信仰熱心な人たちは、聖書は神の言葉なのだから、これを単刀直入に示せばよいと言う人もいる。事実そうしたやり方で導かれた人もたしかにいたわけだが、それはごくわずかの人に限られる。そしてこれが日本の全人口の1%ということではないのか。

たしかに聖書の言葉を直接ぶっつけることで、そうかかったと入信する人がこれまでもいたし、これからもいるであろう。だがそれは1%どまり、残念ながらこの線の突破は望めぬ。この1%を突破するためには、土壌を変える以外にはない。

だが土壌を変えるには多くの時間がかかる。けれども、残された時間はもうないのだ。

だからといって、聖書の真理を弾丸のように、その

まま打ち込むだけでいいのか。伝道の働きはいわば突貫工事でいくしかないのか。いいかえれば、特攻隊的戦法、肉弾戦術しかないのでは？

だが、そうするならたしかに魂を射止めることはできて、それでは1%を超えることは望めまい。

それにしても、教勢の現状を見わたし、前途を望見するとき、どうであろうか。

教会員の高齢化は急速に進み、ライフ誌の報告をみても、バプテスマ数より死亡者数のほうが多いこともあるというありさま、それに集会所の閉鎖のことも考えあわせると、教勢の退潮傾向は否定すべくもない。

※ ここでアドベンチストライフ 2014年1月号からの文を引用したい：

喜ばしき非常事態宣言：

『非常事態宣言』ードキッとさせられる響きです。この言葉が発せられる時、そこには『何か行動を起こさなければならない』というメッセージが込められています。ここに、二つの非常事態宣言があります。一つは救霊数と什一の減少です。この傾向がさらに続けば、什一の額は近い将来に半減し、雇用できる牧師の数も半分になってしまうこととなります。三育校は、次々に閉鎖に追い込まれ、福音文書の発行もままならなくなります。解決策はただ一つ、伝道の進展のみです。

しかし、もう一つの『非常事態宣言』があります。『あなた方は、「刈り入れまでまだ4か月もある」と言って居るではないか。わたしは言うておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて借り入れを待っている』（ヨハネ4:35。）収穫のために出ていくなれば、必ず刈り入れることができる時代が来た、というまさに喜ばしき非常事態宣言です』

それを思うと、これはあまりにも大げさな物言いと叱られそうな気もするが、聖書が記す次のような光景が目につく。

かつてイスラエルの民は、エジプトに奴隷となっていたさい、そこから逃げ出すことが出来ないうえ、煉瓦を焼くのに藁を与えてもらえなかったときの絶望感はどうなであったらうか。

あるいは、ユダの民がバビロンの捕囚となっていたおり、バビロンの川のほとりにすわり、やなぎに琴をかけて涙を流していた時の気持ちはどのようであったらうか。

前途に光を見ることの出来ない彼らの気持ちを察するとき、ほんのわずかではあっても、こんにちの神の民とのあいだに、心情の類似性を視る想いがしないでもない。

エジプトの奴隷となっていたイスラエルの民の解放も、バビロンの捕囚となっていたユダの民の故国への帰還も、人間的にはまったく希望を持ちえない状態にあった。こんにちのわれらも、そのときの彼らと心情を共有しないわけにはいかない感じがするのである。

※ 日本ばかりではない。世界伝道もこのままでは決して完結することはできない。

アンドリュース大学の伝道地研究の報告によると「我々の伝道の働きが現状のまま続くと、イエスは、500年経っても再臨なさらない」。

世界中で、1年に6千万人が亡くなり、1億3千万人が生まれる。1秒に2～3人生まれると言われている。

世界の人口は、1分に137人、1日で20万人、1年で7千万人、増えている。2013年の世界人口は72億人と言われている。

残された唯一打開の方途—神自らが働かれるとき

とはいえ、この世界に対する神の働きに、挫折や失敗はありえない。神が聖業を推進し、これに携わる者を導かれる方法は、人間が行き詰まる時を待って、神自らが行動を起こされる。世にピンチがチャンスという言葉がある。神にとって、いわば人のピンチが神のチャンスとなるときなのである。

とはいえ、それはいったいどんな方法、どんなかたちで、人間の行き詰まりを打開し、突破し、聖業を完遂なさるのであろうか。

ここで思い起こしたいのは、かつてイスラエルの民にとり、エジプトの奴隷状態からの解放は、人間的には絶望以外になかったであろうと思われる。が、彼らは神の奇跡による不思議なわざによってエジプトから脱出できた。彼らは、さらにカナンに向かう途中、紅海にさしかかったときも、後ろからエジプトの軍隊が追いかけてきた。前には進めず、後ろには戻れない。まさに四面楚歌、八方ふさがりの絶体絶命の状態におかれていた。そのため、イスラエルの人々は非常に恐れ、モーセに食ってかかった。

「エジプトに墓がないので荒野で死なせるために、わたしたちを携え出したのですか」（出エジプト記

14：11）。

このときモーセは神に向かって助けを叫び求めた。その結果何が起こったかは、あらためてもうしあげるまでもないであろう。「モーセは民に言った、『あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救いを見なさい・・・主があなたがたのために戦われるから、あなたがたは黙していなさい』」。「民を進み行かせよ」とお命じになった。モーセが杖を海の上に差し伸べると紅海の水が左右に分かれ、通れる道ができた（出エジプト記 14：13, 14）。

この場合、紅海の水を開いたのは、人間の力や努力などではなかった。それはまったく神の力、神自らのわざによるものであった。エジプト軍が後から追いかけてきたのも、神が彼らを紅海の中に導き入れ、分けられた水をもとに戻すことによって彼らを溺れさせ、それによってイスラエルの民をエジプト軍から完全に解放することが目的であったのである（出エジプト記 14：17, 18）。

その昔、イスラエルのために、このような不思議なわざをおこなって、彼らを助け導かれた主は、こんにちも同様、人間的に絶望的な状態にあるわれらに対して、『進み行かせなさい』とお命じになる。しかも神は、かつてと同じように不思議なわざを行って、かならずや道を開き、みわざの完遂を可能にしてくださるにちがいないのである。

イスラエルの民をして紅海を渡らせることは、モーセによっても不可能なことであったが、神はそれを成し遂げて下さった。それと同じように最後のみわざの完結は神みずからの力と導きによって貫徹されるのである。

であるから、われわれはこの働きが果たしてどうなるのかについて心配したり、狐疑逡巡したりすべきではない。まして萎縮してしまって、そこから一步も前進できないでいる、ということであってはならない。

またバビロンに捕囚となっていたユダの民も同様であった。人間的には、故国への帰還などほとんど望み得ない状態であったにちがいない。

しかし、神は預言者エレミヤをとおして、彼らの捕囚期間は70年であり、70年すぎたら、神が彼らを故国に連れ帰ると約束しておられたのである。

「主はこう言われる。バビロンで70年が満ちるならば、わたしはあなたがたを顧み、わたしの約束を果たし、あなたがたをこの所に導き帰る」（エレミヤ書 29：10）。

ユダの民たちは、どんなに故国に帰りたいても、帰ることは不可能であったが、それを神が可能にしてくださったのである。

「見よ、わたしは新しい事をなす。

やがてそれは起こる。

あなたがたはそれを知らないのか。

わたしは荒野に道を設け、

砂漠に川を流れさせる」(イザヤ書 43:19)。

見よ、わたしは新しい事をなす』という。こんにち神が、われらになしたもう新しい事とはなんであろうか。それはほかでもない。世界最終の神のみわざ、すなわち三天使の使命の宣布であり、霊的バビロンからの神の子らの救出である。

『やがてそれは起こる』とある。三天使の使命宣布という働き、これは神の計画であり、神がご自身の力と方法で行われることであり、神が完結なさるのみわざなのである。したがって、これはかならず起こることであり、成し遂げられるに違いないのである。

それにしても、かつてイエスが『地に信仰を見るであろうか』といわれた。この末の時代に、残りのわずかな群れによって、どうやってこの使命宣布の働きを貫徹することができるというのであろうか。

それはいうまでもなく、神が約束しておられる後の雨の降下によってである。それ以外のものによるのでは断じてない。

われわれは今こそ、イエスの弟子たちのことを思い見るべきである。

弟子たちはイエスに対して、ユダヤの民衆が抱いたと同じ、期待と願望をもっていた。すなわち、当時ローマの属国となっていたユダヤの国を、ローマの支配から解放してくれる政治的救済者として期待していた。

しかし、そのイエスが捕らえられ、死刑を宣告され、十字架につけられたとき、イエスに対する彼らの願望と期待は完全に裏切られたかたちとなった。そのため彼らの信仰までが粉碎され、絶望のあまり、イエスを捨てて逃げ去った。背信したといってもよいであろう。

ところがどうであろう。イエスが墓からよみがえられたと聞いて、再び信仰に立ち返った。それのみか、臆病で卑怯でさえあった彼らは、たちまち群衆はもちろん、ローマの官権さえも恐れない勇氣ある人に変身し、不死身の大胆さを持って、ユダヤ人らが十字架に掛けて殺したイエスはよみがえられたこと、そしてこのイエスこそ、神であり救い主であることを証言してはばからなかった。

その結果、ペテロの説教によってその日バプテスマを受けて教会に加わった者が三千人もあったと聖書に記されている。しかも日ならずしてイエスを信じた者が、さらに男だけで五千人にもなったとある。(使徒行伝 2:41, 4:4)。

このような、思いもよらない変化がおこったのは、何が原因であったのかということである。それは上からの力、すなわち約束の聖霊の降下によるものであった。これはまったくの想定外の出来事によるものにほかならなかったのである。

そして、同じことがこんにちわれらのうえにも起ころうとしているのである。なぜなら、かつての弟子たちに注がれた聖霊は先の雨であり、こんにちのわれわれには後の雨が約束されているからである。

かつてイエスは昇天に当たって弟子たちに「エルサレムを離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい」とお命じになった(使徒行伝 1:4)。この命令にしたがって「彼らはみな、…共に、心を合わせて、ひたすら祈りをしていた」(使徒行伝 1:14)。

その結果はどうであったか。

「五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起こってきて、一同がすわっていた家いっばいに響きわたった。また、舌のようなものが炎のように分れて現れ、ひとりびとりの上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した」(使徒行伝 2:1-4)。

こうして、御国のこの福音は、エルサレムからはじまって、ユダヤ全土、サマリア、地の果てまでも、そしてこんにち見られるように、全世界の隅々にまで伝えられているが、これは聖霊の働きによるのである。

であるから、かつて弟子たちに見られたと同じこと、否それ以上のことが、こんにちの教会の上にも起こるはずなのである。

神の使命者エレン・ホワイトは、こう言っている：

「使徒の時代の聖霊降下は、『前の雨』でその結果はすばらしかった。しかし、『後の雨』はもっと豊かに降るであろう」(教会への証し第八巻 21)。

初代教会の伝道の働きとその成果は、人の力ではなく、聖霊の力であり、人間の働きではなく、神のはたらきであった。それと同じように、こんにちわれわれに課せられている働きも、人間の力や方策ではなく、神の力、神の画期的手段や方策によって成し遂げられ

るに違いないのである。

エレン・ホワイトの次の言葉も心に留めたいと思う。

「私はあなたに述べよう。この最後の働きにおいて、主のはたらかれる方法は全く一般的でなく、しかもそれは、人間のどのような計画とも相容れない方法である。・・・神はご自身がみ手のうちに支配しておられるということがわかるような方法と、手段を用いられる。神がご自身の義の働きを起し、それを完成するために用いられる単純な手段によって、働き人を驚かされるであろう」(TM300)。

「慰め主は、人間が設計する明記された規則通りの方法によってではなく、神の道理、すなわちご自身のみ名があがめられる予期しない時と方法によって、ご自身をあらわされる」(EGW88)。

※詩篇 119:126 「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主の働かれる時です」。

「神の力が人の力に加わるとき、働きはわら束につけられた火のように広がって行きます。神は人間にはその源のわからない力を用いられます」(セレクテット・メッセージ 54 頁)。

※「エゼキエルの見た、稲妻の速さで生き物の間を行き来する明るい光のような天の使者たちは、この御業が最後に完成へ向かって前進する速さを表している」(スタディバイブル旧 1078)。

ローマ 9:28 「主は、義をもってすみやかに、御業を地上になしとげられるであろう」 欽定訳。

「この最後の働き(みわざ)において、主はある意味で物事の一般の順序から非常に外れて働かれるし、ある場合には、人間の計画に反しているということを私はあなたに言わせてほしい。

神のみわざを常にコントロールしたい者たちが、われわれの中にいる。彼らはそのみわざが世界に与えられる第三天使の使命に加わる天使の指示のもとに押し進められるとき、どんな運動がもたらされるべきかという事さえ、命令しようとする。併し、神はそれを見手の中に、支配しておられるということを見ることができるようさせる方法と手段をお用いになるであろう。働き人たちは、神の義のみわざを成し遂げ、完成するために、神は単純な方法を用いられることに驚かされるであろう」(TM300)。

「第三天使の使命に協力する天使は、その栄光で全地を照らすのである。ここに全世界的に比類のない力を持った働きが予告されている。1840年から44年に至る再臨運動は、神の力の輝かしいあらわれであった。

そしてある国々においては、16世紀の宗教改革以来どの国にもなかったような大いなる宗教的関心が引き起こされた。しかし、第三天使の最後の警告における大運動は、これをはるかに超えるものとなるのである」(各時代の大争闘下巻 381)。

「大いなる叫びの間、高く上げられた主の摂理的な介入によって援助された教会は、救いの知識を豊かに宣布する。そのため光が全ての都市や町に伝えられるであろう」(EV694)。

これらの引用文に共通して言われている事は、三天使の使命を宣布する働きは、これまでとは全く異なった性質の働き、人間の計画や方法また力による働きとは全く異なった方法や力による働きであることである。それは直接の神の介入によるものであって、人間の思いもよらない不思議な業によってなされるものであるということである。それは、われわれ人間にとって、まさに想定外の出来事として押し進められる働きにちがいないのである。

それはいつのことか?時はわからない。だがはっきりいえることは日曜休業令が出てから、天の聖所におけるキリストのとりなしが終わり、恩恵期間が終了するまでの間であることはたしかである。



働きは遅々として進まない。これからどうなるのかを考えると絶望感に苛まれる。が、聖書の預言は輝かしい将来を約束している。

「この後、わたしはもうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた」(ヨハネの黙示録 18:1)。

これは、神のみわざの最終的完結を意味する宣言なのである。

ある牧師は、こんな例話を語っている。

「クリスマスツリーに豆電球を巻き付ける。最初に一連の豆電球のコードをいくつか接続して一本にし、木の枝のあいだを内から外へと、からめてゆく。豆電球で木が飾られると、壁のスイッチを擦して部屋全体を真っ暗にする。そして豆電球のプラグを壁のソケットに差し込むと、一瞬間に全部の豆電球が輝いて、木が小さな光の星でつまれる。

150年の間にセブンスデー・アドベンチストは全世界に豆電球の巻き付けを行ってきた。その間に私た

ちの成し遂げた事は、取るに足りないもののように思われる。しかし、後の雨の聖霊の力が神の教会にエネルギーを送られるとき、光の小さな灯火はどんどん増えて、世界は光の洪水となる。

教会として神のお目的にこれ以上に沿える何ものも、考える事が出来ない。灯を巻き付ける作業を続けよう。我らはその結果が、たとえわずかのように見えても、今、巻き付ける灯が増えれば、後の雨と、大いなる叫びの時が来るとき、聖霊は世界をさらに明るく照らされる」(終末における危機的課題 366、367)。

この豆電球が一斉に光輝くようになるのは、いうまでもなく後の雨の降下による。しかし、われわれがそのとき、後の雨の傾注に浴するためには、いま先の雨の注ぎを受けていなければならない。いま先の雨をうけていなければ、やがて後の雨が実際に降っていてもそれに気づかないであろうとも言われている。とするなら、われらはただ単に、聖霊を未来に仰望するだけでなく、いま現実に体験していなければならないわけである。

米国は原爆で神国日本を焼き払った。原爆は現人神という偶像をも粉碎した。日本は天皇の人間宣言で降伏を受け入れた。だが伝道の働きに、原爆を使用するわけにはいかない。けれども神は原爆どころではない大いなるダイナマイトで世界の偶像を粉碎し、消散させられる。

問題は、われらがどれほど、神と神の力を信頼し、約束の聖霊を待ち望み、真剣に祈って備えているにかかっている。

.....

だが、ろうそくや炭火は、人間が意のままに造り用いることができる。けれどもこれは、有限でいつかは尽きはてるときがくる。最後は万策尽きて終わりとなるのを待つだけとなろう。

「後の雨の注ぎの下では、人間の考案や人間の機構(組織)などは一掃され、人間の権威は折られた葦のようになるであろう。そして聖霊は生きた人間(という器)を通して、説得力をもって語るであろう。…生ける水が神ご自身の水路から、流れ出るであろう」(2 SM58、59)。

「ペンテコステの日に弟子たちが祈ったように、聖霊降下のための熱心な祈りをすべきである。もし彼らがあの時代にそれが必要であったなら、われわれは今日それをもっと必要とする…聖霊の助けなしでは、神の真理を提示するわれわれの努力は水の泡となるであろう」(RH1896年、533)。

「われわれは後の雨について心配する必要はない。われわれはただ器を綺麗にして、おもてを上にしてあげばよい。そして天の雨を受けるために備えて次のように祈り続けるのである。『わたしの器にも後の雨を注いでください。第三天使と結合する栄光の御使いの光が、わたしを照らしますように。働きの一部を私に担わせて下さい。宣布の音をわたしに鳴らさせて下さい。わたしをイエス・キリストの共労者にしてください』と。わたしはあなたに言うておく。こうして神を求めらば、神は、常にあなたを仕立てて、神の恵みをお与えになる」(UL283、1891年)。

「祈りの応えは、非常な早さで突然に、しかも圧倒的な力をもって与えられることもあれば、あるいは幾日も幾週間も遅れて信仰が試みられる場合もある。しかし神は、われわれの祈りにいつ、どのように答えるべきかをご存知である。自分自身を神の伝達経路に接続させておくことが、われわれのなすべき分である。神は、神のなさる分について責任がある。神は約束に忠実である。われわれにとって重要なことは、すべてのねたみと敵意を捨て去り、心と意思を一つにして、へりくだった懇願者として目を覚まし、待つことである。われわれの代表者であり、かしらであられるイエスは、ペンテコステの日に目を覚まして祈っていた人々のためになされたことを、われわれのためにもなさうとしておられる」(3 SP272、1878年)。

「わたしは聖霊降下がいづ起こるのか、すなわち力強い天使が天より下り、この世界のための働きを終わらせるために第三天使と結合する時について、語るべき特定の時を示されてはいない。次のことがわたしのメッセージである。われわれの唯一の安全は、われわれのランプの芯を切り揃えて燃やしつつ、天からの慰めに備えておくことである」(1 SM192)。

「異邦の偽りの神々のうちに、

雨を降らせうる者があるであろうか。

天が自分で夕立を降らすことができようか。

われわれの神、主よ、

あなたこそ、これをなさる方ではありませんか。

われわれの待ち望むのはあなたです。

あなたがこれらすべてのことをなさるからです」

(エレミヤ 14 : 22)。

後の雨 / 大いなる叫び に含まれる経験

金城 重博

及川牧師の記事で学んだことは、①福音宣伝の完結は、神の直接の介入、すなわち、後の雨 / 大いなる叫び以外にないことであった。②そのタイミングは日曜休業令と人類の恩恵期間の終了の間であることも学んだ。

日曜休業令

後の雨/大いなる叫び

恩恵期間終了

「キリストのみ言葉によって弟子たちに将来がはっきり示されていたように、われわれにも将来のことが預言の中にはっきり示されている。恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。しかし多くの人々は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。サタンは、彼らに救いに至る知恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとかがっているので、彼らは悩みの時に備えができていない」大争闘下 359, 360。

サタンは、はっきり示されている重要な事件に関する真理について混乱させようとしている。キリスト教界 1980 年頃起きた「後の雨運動」、「聖霊の第三の波」が再現され、ますますエスカレートして、多くの人を惑わしている。

偽後の雨、偽のリバイバルが本物の前に起こる。

確かに聖書に終わりの時代に聖霊降下—後の雨が注がれることが約束されている！しかし、本物のリバイバル—後の雨の前に偽のリバイバルが起こる。

「地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。

その時、多くの者が、神と神の言葉の代わりにこの世を愛してきた諸教会から離れる。牧師も信徒も、多くの者が、主の再臨に民を備えさせるために神が今宣

布させておられるこれらの大真理を、喜んで受け入れる。魂の敵は、この働きを妨害しようとする。そして、こうした運動が起こる前に、偽物を提示することによってそれを妨害しようとする。彼は、自分の欺瞞(ぎまん)の力のもとに置くことのできる諸教会において、神の特別な祝福が注がれているかのように見せかける。大いなる宗教的関心と思われるものが現れる。多くの人々は、神が彼らのために驚くべきことをしておられると喜ぶが、それは、別の霊の働きなのである。宗教的装いのもとに、サタンは、キリスト教世界に自分の勢力を広げようとする」大争闘下 190, 191。

セブンスデー・アドベンチスト教会内でも、偽リバイバルの奇跡、癒し、異言等々の現象は見られないにしても、後の雨がいつ降るかについての混乱が見られる。

本物の後の雨 / 大いなる叫びはいつ？

神の働きは、聖霊によってなされる。「これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである」(ゼカリヤ 4:6)。先の雨—ペンテコステも、後の雨による最後の働きもそうである。後の雨と大いなる叫びは切り離せない。最後の全世界的な比類のない働きが予告されている。

黙示録 14:6-7 には「大声」で叫ばれる地球最後の警告の使命が記されている。黙示録 18:1,2 にこう記されている：

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。彼は力強い声で叫んで言った、『倒れた、大いなるバビロンは倒れた』」。

「わたしは、武具をまとった人々が力強く真理を語るのを聞いた。それは効果的であった。多くの人々が縛られていた。夫に縛られていた妻もあれば、親に縛られていた子供もあった。真理を聞くことを妨害されていた心の正しい人々は、今、熱心に真理を自分たちのものにした。親族を恐れる気持ちは全くなかった。そして、真理だけが彼らの前で高められたのであ

る。彼らは、飢え渇くように真理を求めていた。真理は、生命よりも愛すべく尊いものであった。わたしは、何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。『それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大いなる叫びである』と天使は言った」初文 440。

1. 大争闘下 381-383 と初代文集 440 から、後の雨と大いなる叫びは切り離せないことが分かる。
2. 使徒行伝 3:19, 20 大争闘下 218、大争闘下 381-383 から、罪の除去と後の雨は切り離せないことが分かる。
3. では、罪の除去と後の雨の経験はどちらが先だろうか？これは愚かな質問かもしれない。なぜなら、罪の除去も後の雨の働きであるからである。

- ① ヨエル 2:23 - 32 で、終わりの時に後の雨が約束されている。
- ② 使徒 3:19, 20- 慰めの時（雨）
- ③ 黙示録 14:9(黙示録 18:1-4) 大いなる叫び

これらは一つのことであり、同じ事件である。

使徒ペテロは、ヨエル書から引用したのである。初代教会がペンテコステを経験したのはヨエルの預言の部分的な成就であった。ペテロは、キリスト再臨直前に罪の除去、後の雨が成就することを預言したのであった。英語でははっきりするが、日本語でははっきりさせるために番号を付けた。

使徒行伝 3:19, 20 の説明：

「だから、②自分の罪をぬぐい去っていただくために、①悔い改めて本心に立ちかえりなさい。 3:20 それは、③ 主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあった④キリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである」使徒行伝 3:19, 20。

事件の順序を整理しよう：

1. 悔い改めよ
2. “so that” 何のために？ あなたの罪をぬぐい去っていただくために＝ **罪の除去**
3. “so that” 何のために？慰めの時 (refreshing- 活気づける) が来るから＝ **後の雨**→生ける神の印
4. イエスの再臨。

意味を変えずに次のように言うこともできる。

1. 悔い改めよ
2. それは慰めの時 (refreshing- 活気づける) が来る時) = **後の雨**→生ける神の印 (聖霊による証印—エペソ 1:13, 4:30)
3. その時、あなたの罪がぬぐい去られる＝**罪が除去される**。
4. そしてイエスの再臨がある。

慰めの雨が降る時に罪が除去されるという用い方と、後の雨のために罪が除去されるという用い方は矛盾するか？ E. G. ホワイトは、両方の使い方をしている：

①「我々は悔い改めと告白によって罪を裁きに先立って送っているだろうか。罪が除去されるために慰めの時が来るからである」RH1882-8-28

「調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、**彼らの罪はぬぐい去られることはできない** (1888 年版では、〔調査審判において〕と付加されている)。しかし、使徒ペテロは、はっきりと、信者の**罪が除去されるために**、『主のみ前から慰め〔原文では refreshing (活気づけ、回復の意)〕の時〕が来る。そして、『キリストなるイエスを、神がつかわして下さる』と言っている (使徒行伝 3:19 参照。同 20 節)。調査審判が終わると、キリストは来られる。そして、たずさえて来た報いを、それぞれの人の行ないにしたがってお与えになるのである」大争闘下 218。

②「…それは**慰めの時が来る時、彼の罪が除去されるためである**。そして彼の名前は命の書に保留されるであろう」RH 1884-10-21。

「贖いの日に…すべての者が神の前に魂を悩まし、さばきに先立って罪が告白される時、**慰めの時**が来て**罪が除去される**であろう」RH, 1884-10-21。

使徒行伝 3:19 の「時」(hopos) に関する SDA の聖書注解：

「辞書編集者と文法学者たちは“hopos ホポス”を時というよりも一致して**目的**という意味に使っている。新約で An(不定冠詞) なしにまたは不定冠詞をつけて 56 回出てくる。ここだけ「時 when」と訳されている。他は (how どのように) (マタイ 22:15; ルカ 24:20), “so that” “～のために (ルカ 16:26)、

罪の除去はどんなにすばらしい経験であろうか？

使徒パウロは、地上の聖所の奉仕と天の新しい契約の聖所を比較して次のように言っている：

「いったい、律法はきたるべき良いことの影にすぎず、そのものの真のかたちをそなえているものではないから、年ごとに引きつづきささげられる同じようないけにえによっても、みまえに近づいて来る者たちを、全うすることはできないのである。もしできたとすれば、儀式にたずさわる者たちは、一度きよめられた以上、もはや罪の自覚がなくなるのであるから、ささげ物を作ることがやんだはずではあるまいか。しかし実際は、年ごとに、いけにえによって**罪の思い出**がよみがえって来るのである。・・・彼はひとつのささげ物によって、きよめられた者たちを永遠に全うされたのである。聖霊もまた、わたしたちにあかしをして、『わたしが、それらの日の後、彼らに対して立てようとする契約はこれであると、主が言われる。わたしの律法をかれの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう』と言い、さらに、『もはや、彼らの罪とかれの不法とを、**思い出すことはしない**』と述べている。これらのことに対するゆるしがある以上、罪のためのささげ物は、もはやあり得ない』ヘブル 10：1-3、14-18。

我々は罪ゆるされても、裁きの時まで「義であると同時に、不義である」（ルター）ことは経験で知っている。罪の記録は天に記録されるばかりでなく、心にも記録されている（エレミヤ 17:1）。しかし、さばきにおいて神に対する悔い改めとイエスに対する信仰のゆえに、両方の記録が永遠に除去される。

「最後のあがないの日に、真実に悔い改めたものの罪は天の記録から除去され、もはや思い出したり、頭に浮かぶ事もないようにされる…」あけぼの上 422。

「しかし彼らは自己の無価値なことを深く認めるけれども、告白すべき悪を隠してはいない。彼らの罪は、キリストの贖罪の血によってぬぐい去られていて、彼らはそれを思い出すことができないのである」あけぼの上 220。

「彼らは自分の全生涯中に善をほとんど見ることはできないが、どんな特定の罪も思い出すことはできない。彼らの罪は前もって裁かれ、ゆるされ、彼らの罪は忘却の彼方へと取り去られてしまった…」3SG 135。

悔い改めた信者は、神からの義認を受けて「子たる身分」を受けているが罪が除去されてからは、罪

「だから、～のために」（使徒 20：16）として使われているが、最もよく使われているのは、「…のために that」、あるいは他の目的という意味に使われている（使徒 8:15, 9:12、17、24；ロマ 3:4；など）。使徒 3:19 が欽定訳のように「時」として使われているところはない。したがって、この句は「時」というより、“so that ~のために” …。このギリシャ語は「あなたの罪が除去されるために、主のみ前から慰めの時が来る」と訳すべきある (RSV)」7 BC158, 159. セブンスデー・アドベンチスト聖書注解。

罪の除去は、後の雨に先行する！

1888年にミネアポリス世界総会で「天から与えられた最も尊いメッセージ」の器であった A. T. ジョーンズが言う：

「この罪の除去は後の雨の慰め（リフレッシュ=生氣）を受けることに先行する…」クリスチャン完成に至る道、p90(The way to the Christian Perfection)。

従って、**後の雨=慰め（活性の雨）**は、イエスの調査審判、最後の贖いの働きによってすべての罪が除去され、一切の罪の痕跡から清められ、聖潔が完成された者たちにのみ降るのである。これが、使徒行伝、ヨエル、黙示録の明確な教えである。

「我々の品性にたった一つでもしみや汚れがある間は、神の印を受ける者は一人もないであろう。品性の欠陥を直し、すべての汚れから心の宮を清めることは、われわれに託されている。それがなされたとき、前の雨がペンテコステの日に弟子たちの上に降ったように、後の雨がわれわれの上に降るのである」5T 214, 1882。

J. N. アンドリュース：

「**罪の除去**の必然的な結果として**慰めの雨**が起きる」The Judgement. Its Evets and Order。

罪の除去と後の雨とは切り離せない。

J. M. スティフェンソン「**罪の除去**は、神がイエス・キリストを遣わされる直前に、**慰めの（雨）の期間に起こる**」Atonement and Reconciliation。

再臨運動の先駆者たち（ユライヤ・スミス、ワゴナー、ラフポロー等々）は皆「慰めの時」に「罪の除去」が成されるとしている。CD から調べることができる。

「この品性の調査、罪の除去については、学んできたように恩恵期間終了の前に天の聖所で成される最後の働きである」April 2, 1861 UrSe, ARSH 156. 10。

のない状態にされる。

「今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあって完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。心の中に罪の欲望があると、サタンはそれを用いて誘惑の力を表わす。しかし、キリストはご自身について、『この世の君が来る……。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない』と宣言された（ヨハネ 14:30）。サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかった。神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼（キリスト）の中にはなかった。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである」大争闘下 397。

死を経験することなく、生きて主を迎える者たちのためになされるなんという素晴らしい贖いであろう！彼らは汚れた品性の衣が着せられて「二度とこの世の汚れに染まない」者とされ、「誘惑者の計略から、永遠に安全なもの」とされるのである（国と指導者下 196）。

それは、いつ起きることか？ **大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に起こる**。地上の聖所には、福音がぎっしり詰まっている。日毎の聖所の奉仕は、「**罪のゆるし**」を提供するが、大祭司が年に一度至聖所に入る時には民のために「**もろもろの罪が清められ、贖いがなされる**」のである（レビ記 16:30）。もろもろの罪が清められることを、使徒パウロは「**罪の除去**」と言っているのである。

後の雨の聖霊ですべての罪が心から除去され、律法が心と思いに記される経験をした人々は、どうりで大いなる叫びに立ち上げられるわけだ（イザヤ 4:3；ヘブル 8:10、10:16；黙示録 18:1）。

後の雨によって額に印される前は、激しい精神的苦悶に陥る。その時、赦されたすべて罪がよみがえってくる。検察官であるサタンが訴えるからだ。絶望的な経験である。唯一の希望は神の憐みだけである。しかし、我々の弁護士はその血をもって雄弁に弁護なさる。「**汚れた衣を脱がされた**」神の民は「二度とこの世の汚れに染まない」、「**永遠に安全なもの**」となって、「**生ける神の印を受ける**」（国と指導者下 193-196）。

恩恵期間が終了して後、神の民は、「ヤコブの悩みの時」にも、激しい精神的苦悶に陥る。しかし、その時には、罪を思い出すことはない。罪が除去されているからだ。いつ罪は除去されたのか？ 日曜遵守令と

恩恵期間の裁きの時である。後の雨 / 大いなる叫びの経験してから罪を思い出すだろうか。否、否である。

後の雨は、我々の心に許されても残っているすべての罪を除去するだけでなく、律法が完全に心に記されるわけだから、キリストに宿っていた聖霊の力で「**力強く**」叫ぶのである（黙示録 18:1, 2）。

後の雨が御業完結を成し遂げる大いなる叫びに力を与えることは、わが教会に重々語られている。しかし、後の雨が我々の内に品性を完成することが見逃されている。これを、ミッシングリンクと呼ぶ人もいる（ミッシングリンクとは、発見されていない類人猿と人間との中間、失われた環）。

「季節の終り近くに降る後の雨は穀物を熟させ、刈り入れに備える。穀物が熟するという事は、魂の中に神の恵みのみ業が完結することを表している。聖霊のみ力によって**神の道徳的かたちが品性に完成される**のである。われわれは全くキリストに似た者に変えられる。地上の穀物を熟させる後の雨は人の子の来臨に教会を備えさせる霊的恵みである」TM 506。

主が後の雨 / 大いなる叫びをもって直接介入されるのはいつなのだろうか？

「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です」詩篇 119:126。

「神の律法が無効にされ、背教が国家的罪となる時、主はご自分の民のために働かれるであろう」最終時代の諸事件 86。

「偽りの安息日施行の法令が出て、第三天使の使命の大いなる叫びが獣とその像の礼拝に対して警告を発するに至る時に、偽りと真理との間の境界線がはっきりと引かれる。その時、罪を犯し続ける者が獣の刻印を受けるのである」最終時代の諸事件 86。

生ける者のさばきにおいて、神の民の罪が除去され、後の雨によって印され、永遠に清いものとされる。最後のテスト日曜強要令によって多くの星（指導者たち）がふるわれて後、純粋な伝道者たちが後の雨に備えられる：（同 104、学歴でなく、聖霊によって資格が与えられる信徒たち - 大争闘下 376）

「間近に迫っている大論争点[日曜休業令の施行]は、神が任命なさらなかった者たちを取り除くであろう。こうして神は、後の雨のために準備された純粋で真の清められた伝道者をお持ちになるのである」最終時代の諸事件 118。

黙示録 13:8 によると、全人類は、獣を拝むか、神のみを拝むか、獣の刻印を受けるか、神の印を受ける

か、二つのグループに分けられる時が来る。「地に住む者で、世の初めからほふられた小羊のいのちの書に、その名をしるされていない者はみな、この獣を拝むであろう」(黙示録 13:8)。永遠の御国に入れる者はいのちの書に名を記されるものだけである(黙示録 21:27)。それ以外の者は第二の火の池に投げ込まれ、第二の死を経験する(黙示録 20:14, 15)。

「主は私に、恵みの期間が閉じられる前に、獣の像が形作られるということをはっきり示された。なぜなら、それは神の民のための大いなるテストだからである。それによって彼らの永遠の運命が決定されるであろう。… [黙 13 : 11-17 を引用] … これは神の民が印される前に受けなければならないテストである」 Letter 11, 1890 スタディバイブル (新) 585, 586。

「法令が發布されて印が押される時、彼らの品性は永遠に清く、しみのない者となるであろう」5T216。

黙示録 14:6-12 に、地球最後の全人類に対する三重の使命が記されている。

第一天使の使命「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め』」。

セブンスデー・アドベンチストは、1844年から死せる義人のさばきが始まっていることを知っているが、この聖句は、文脈から言って、13章の事件が起こってから伝えられる生ける者のさばきを描写している。まだ未来のことである。生ける者の裁きは、実に永遠の福音そのものである。神の恵みのみ業が信じる者の内に完成するのであるから。

主は、「だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない」と言われたが(マタイ 19:6)、この言葉は、終末事件に適用してもいいのではないか。

後の雨が今もう降っている、大いなる叫びの運動は始まっているという人もいる。生ける神の印は、1844年から始まっているという人もいる。生ける者の裁きは何時始まるかわからないという人もいる。

罪の除去を後の雨から切り離して、恩恵期間が終わって罪の除去がなされるという人もいる。我々は、はっきり靈感によって示されていることを曲解、歪曲していることはないだろうか。右の図②③のように、バラバラにしてはならない。

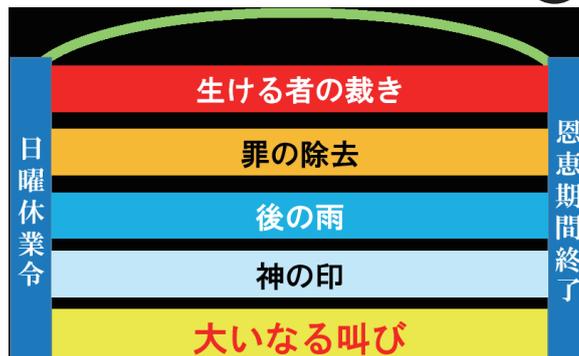
神の民には、比類のない大いなる祝福が待っている。

「人手によらず」神ご自身の介入を待とうではないか。ただ待つのではなく、神の大いなる祝福を受ける我々のなすべき義務がある。

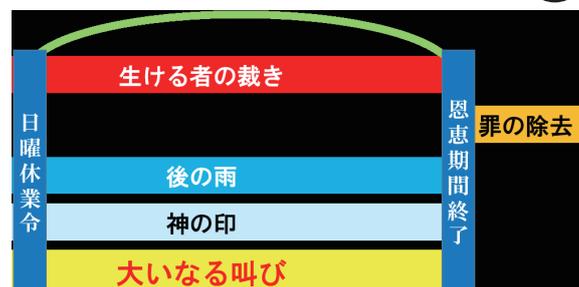
ゼパニヤ 2:1-3 「あなたがた、恥を知らぬ民よ、共につどい、集まれ。すなわち、もみがらのように追いやられる前(法令が出る前に=欽定訳)に、主の激しい怒りがまだあなたがたに臨まない前に、主の憤りの日がまだあなたがたに来ない前に。すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、主を求めよ。正義を求めよ。謙遜を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがある」。

今は、セレブレーションの時ではない。昔、イスラエルの民は、大いなる贖いの日には、どのように過ごしただろうか。仕事を止め、断食し、聖所の周りに集まって、魂を深く悩ました。我々は実体の贖いの日に住んでいる。永遠の運命が決定されようとする日に住んでいる。「平和だ、無事だ」歌えや踊れやの時ではない。深く心を探索して最後のイエスの仲保の祝福にあずかる備えをする時ではないだろうか(大争闘下 224)。

①



②



③



創造主の傑作 恐竜！！

恐竜の真実
ホントの恐竜

創造科学研究会顧問、
ジェネシスジャパン副会長
山本 哲也

私は、恐竜は神様が創造時、お造りになった動物であって、1600年ほど経って、ノアの洪水の時、箱船に入ったと思っています。日本の方々は恐竜に対してあまり良いイメージを持っていません。「恐ろしいドラゴン」、これは誤訳だと思っています。今日の話の後皆さん納得いくと思います

この恐竜は実に愛すべき動物です。人間に対するほどではないでしょうが、神様が非常に愛して、「これは私が造った動物の中で一番傑作」と、ヨブ記の40-41章で言われています。私は神様がヨブにしている恐竜についての言葉だと思っています。私のはっきりと言えるほど、恐竜は性質や機能、その他素晴らしくよく出来た動物だと思います。この数年恐竜の発掘をするようになって感じることでした。そのあかしを含めて恐竜の本当の姿を是非知っていただきたいと思います。

創造主の傑作 恐竜 !!

—どんな動物だったの？

恐竜の真実 ホントの恐竜—

小学生たちは恐竜についてよく知っていますが、非常に偏っています。皆さんに正しく理解してもらいたいと思います。

本当の恐竜はどのようなものであったのか、これはこれまで発見された恐竜の形の分かるものを一堂に集めました。ところが、この絵を描いた人が誤解していると思うのは、口を開け鋭い牙をむいている恐ろしい恐竜をどうしても書きたがるのです。それが恐竜についての誤解の第一だと思っています。



これは数年前に行った恐竜の展覧会のポスターです。日本は恐竜ブームです。この時のテーマは巨大な恐竜を展示しようということでした。



恐竜についての質問

- ・恐竜がいたということは分かるの？（恐竜はイメージで作った幻の動物ではないの？）
- ・どれほど大きかったの？
- ・どんな姿だったの？
- ・いつ滅びたの？ どうして？

これが小学生はじめ皆さん方の質問です。すると小学生は言うのです。「恐竜って知ってるよ」と。しかし、多くの小学生たちは、恐竜は全部肉食だと思っているようです。

恐竜の種類はチラノザウルスーレックス（T-Rex）と言われている、世界最強の肉食恐竜と言われているものです。T-Rexを集めてみました。みんな恐ろしい顔をしてかみつきそうになっているのです。これが小学生の持っている恐竜のイメージです。

これがチラノザウルスーレックス（T-Rex）の典型的な復元図です。よく見て下さい。頭が大きい、たくさん歯がある、後ろ足は大きくてたくましい、前足が小さく貧弱……これを頭に置きながら、話を聞いて下さい。いろんなところの博物館が展覧会にもってくるT-Rexの絵や模型、世界中の博物館のT-Rexの模型やプラスチックで肉を付けたものは、基になるT-Rexの骨格は二つくらいなのです。その二つくらいを基準にして肉を付けたものが世界中に出回っているのです。T-Rexは最強の肉食恐竜と言われるほど1.2～1.3mくらいある大きな頭、大きな口に鋭い歯、しっかりした背骨で、



蹴られるとひとたまりもない大きな足、鋭い爪、尻尾も太いのです。

その元々のT-Rexの骨はアメリカから出たのですが、世界中では、約43体出ています。その内の39~41体はアメリカの四つの州(コロラド州、ユタ州、ワイオミング州、モンタナ州)に集中しています。世界中の他のところでは、この恐ろしい肉食の恐竜は出ないということです。私たちが発掘しているところからも歯が出ますが、それがT-Rexかどうか分かりません。不思議なことに、世界一凶暴な肉食の恐竜T-Rexがわずか40体くらいしか発見されていなくて、アメリカのくっついている四つの州だけ、これは実に狭い場所です。

「恐竜の血は温かった」という論文が出ました。血が暖かいというのは、簡単に言うと哺乳類です。この論文を書いた方は「恐竜はひょっとしたら哺乳類ではなかったか」と言われています。私はこの言い分は納得できるのです。恐竜のことを見ていると、恐竜をただ単に「爬虫類」に分類するのはいけないと思っています。でも、「哺乳類」というのも違います。恐竜は卵を産み、皮膚は鱗です。これは爬虫類の特徴です。私はもしも出来るならば、恐竜は爬虫類でもない哺乳類でもない、「『種類に従って』の新しい分類にしたいなあ」と思っています。今のところ賛成している人は数人しかいません。



これは大きさとしては最大級の肉食恐竜「スピノサウルス」です。これは南米からたくさん出ています。



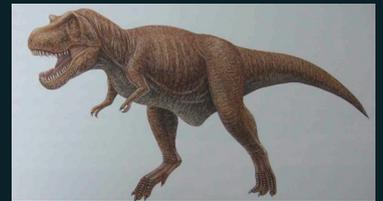
これはチラノサウルス(T-Rex)の骨格です。全部そろっていません。全部と言っても100%ではありません。完全な骨格が出ているものは、73%くらいしか揃っていません。完全に骨格が

そろっている恐竜はいません。足りないところは、似ている他のT-Rexの骨を借りて来るなどして100%にしているのです。ですから、まだいろいろと誤解はあるでしょう。

この骨格に肉をつけると、このように



なります。これが本物らしいチラノサウルスになります。



チラノサウルスを都会の新宿に連れていくとこのようになります。ガード下ですが、人間や自動車の大きさと比べてみてください。実際にこのような恐竜がいたのです。



大きさを考えると、かなり大きく、これは内モンゴル自治区で出てきた恐竜です。「ヌエロサウルス チャガネシス」、頭から尻尾の先まで25.9m、高さは12m、人間と比べるといかに大きいか分かります。骨が出て来ますから、このような恐竜はいたのですね。



そのようなことをまとめると、「大きい、恐ろしい、肉食獣…怖い!」、これが小学生が持っている恐竜のイメージです。でも、本当でしょうか?

恐竜がいたってどうしてわかるの?

—恐竜の足跡が残っています

これは恐竜の足跡です。10cmとありますが、全体を計るとゆうに40cmはあるでしょうか。



2人の人がなだらかな崖に寝転んでいて、その間に恐竜の足跡があります。いかに恐竜の足跡が大きいかわかるとおもいます。



これも恐竜の足跡です。指が3本あります。おおざっぱに言って、3本指の足跡を残す恐竜は肉食です。ゾウのような丸い足跡をつける恐竜は大体草食です。

斜面に恐竜の足跡がずっと続いているのです。三本指の足跡と丸い足跡が並んでいます。アメリカに行く
と足跡のあるところがたくさんあります。日本には今
まで恐竜が出なかったのですが、群馬県のあるところ
で恐竜の足跡が発見されました。その途端に、県か市
がフェンスを張って立ち入り禁止にしました。

韓国の川底に恐竜の足跡があります。幅が 1.2 m あり
韓国で一番大きい足跡だと言われているものがあり
ます。

そのほかの恐竜がいた証拠は「化石」が出ることで
す。



これは大腿骨です。これは
1 m あります。左にあるのは
大腿骨の下骨でしょうか。
訓練すれば、恐竜と他の爬虫
類や哺乳類の見分けは簡単に
つきます。間違ふことがあり
ません。

恐竜のいろいろな骨が出て
いる写真です。恐竜の場
合、腕や足の骨、肋骨、この
ようにいろいろな骨が一緒
になって出て来るのが普通
です。骨が出て来るといろ
んな方法で骨がどのような
状態で埋まっていたか人工
衛星を使って正確に測りま
す。その後は、骨をどこに
動かしてもコンピューター
にあった場所が正確に出
て来ます。プロジェクトと
して 10 年ほどやっていますが、
2010 年 6 月に 1.25 m の大
腿骨ができました。このよ
うな大きなものはめった
に出ません。

恐竜の大きさは？

このように考えていくと、恐
竜の大きさは、大きいのか
小さいのかという質問が出
て来ます。例えば、大腿骨
だけだとおおよその大き
さしか出て来ません。恐
竜の大きさを調べるには
まるまる一体出て来て、
組み立てて初めて分かる
のです。一体出て来るの
は大変なのです。アメリ
カのユタ州バーナルに有
名な恐竜博物館がありま
す。ここに発掘された大
きな骨があります。別の
博物館には、一体まるま
る大きさがわかるもの
が展示されています。大
きさとしては馬かラクダ
くらいです。また別の博
物館ではゾウよりも大
きいものがあります。



エオラプトル、犬く
らいの大きさです。こ
れは大人の恐竜です。
大人でも 1 m ほどの
ものがあるというこ
とです。



ガストニア、これは
チーターくらいの
大きさの恐竜です。



プロトケラトプスの
子供、羊くらいの
大きさです。



ステゴサウルスは
像くらいの大き
さ。背中について
いるフィンがど
のような役目を
したのか、今
でも解明でき
ていません。



トリセラトプス、
大人ではない
と思いますが、
牛くらいの
大きさです。



ケラトプシアン、
ゾウより大
きい、たくま
しい恐竜です。
骨で分かります。



「世界の巨大恐竜 2006」の
ときの呼び物だった、ス
ーパーサウルス、頭から
尻尾の先まで 33 m、肉
をつけると 45 トンあり
ます。現在はこれより
10 メートルほど大
きな恐竜が発見され
ています。45 メートル
の大きさとしても、
ノアの箱船の大き
さが 200 m ほどの
大きさになるの
ではと考えると、
この大きさの恐
竜は悠々と入
ることが出来
たと思います。
スーパーサウル
スの歯は草食
動物のもの
です。

恐竜の大きさを比べてみよう！

恐竜の大きさ	(約) 全長	重さ
セイモサウルス	40 m	60 t
スーパーサウルス	33 m	40 ~ 45 t
ヌオエロサウルス	26 m	60 t
ブラキオサウルス	25 m (高さ 16 m)	50 t

ティラノサウルス (スー)	13 m	5 ~ 6 t
ステゴサウルス	3 ~ 9 mゾウくらい	4 t
トリケラトプス	1.8 ~ 9 mラクダ	0.1 ~ 5 t
カンプトサウルス	ウシくらい	0.2 t
テクノサウルス	大型犬	0.02 t
ピサノサウルス	大型ネコ	0.01 t
コンプソグナトゥス	ニワトリくらい	0.003 t

一番小さいので3kgくらい、40メートルの大きさの恐竜もいます。恐竜はいろんな大きさのものがいるのです。骨一体まるまる出て組み合わせることが出来て、大きさがはっきり分かる恐竜は、全世界で2500体ほどあります。その恐竜の大きさを比べてみると、平均の大きさは、上記表のトリケラトプス、カンプトサウルス、テクノサウルスの大きさになります。つまり、ラクダ、牛、大型犬、馬くらいの大きさです。この大きさは家畜の大きさです。実は「**恐竜は家畜くらいの大きさであった**」と言えるのです。まずこれは皆さんに誤解を解いていただきたいことの一つです。

恐竜の大きさは、残っている骨や足跡から考えると**平均的には家畜の大きさ**でした。

恐竜の食べ物、生活はどうであったか考えてみましょう。恐竜は何を食べていたか、歯を見ると分かります。



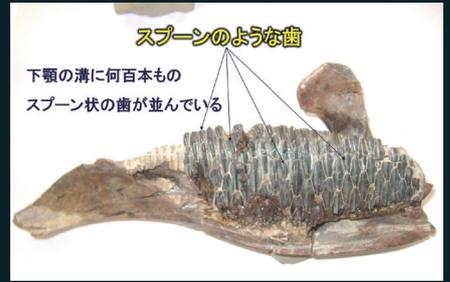
メガロサウルスの歯ですが、これは明らかに肉食の恐竜の歯です。鋭く、歯の側面がのこぎり状になっていて、まさに肉を裂いて、骨を砕いて、かぶりつくのにふさわしい形をしています。上下で100本余りの歯があります。

草を食べる恐竜の歯はどうでしょう。

スプーンやうすの形をしています。草を歯で刈り取り、うすのように擦って飲み込むように、便利に出来ているのでしょう。

私たちが掘っているところで一番出る恐竜の化石は草食恐竜エドモンサウルスですが、上顎にびっしりと歯がついています。歯が擦り切れたり折れたりすると、中から新しい歯が出て来るようになっていきます。

下顎などはゾウの歯に似ていますが、ゾウの歯はギザギザのところエナメル質です。エドモンサウルスの歯はただ溝になっているだけで、この溝を何百本のスプーン状の歯が埋まっていて中から外へ入れ替わるようになっているのです。



スーパーサウルスの歯を見てみましょう。

草食恐竜でした。ついている歯がその形をしています。



アメリカ・テキサス州にある恐竜公園博物館のパネルです。

横と縦に10頭ずつの恐竜が並び、全部で100頭の恐竜が描かれています。5頭だけ赤い色です。黒い色の恐竜は草食恐竜、赤い色の恐竜は肉食の恐竜。つまり、100頭恐竜が



いたら、その内の、95頭は草食恐竜で、残りの5頭だけが肉食恐竜と、このパネルは教えています。これは研究から出てきた統計の数です。このことも皆さんは誤解していたのではないのでしょうか。

恐竜はどのような生活をしていたのでしょうか。

恐竜の卵ですが、あちこちに卵を産んで巣を作っています。この五つの卵はランダムに産んでいます。



でも、大部分の恐竜は、巣を作り、そこに円を描くように卵を産んでいます。その中には孵化しなかったものもあります。それを調べて卵の中がどうなっ

て出て来るときどうなっているか分かっているのです。恐竜は巣を作り、卵を温めて子育てをしていたに違いないのです。

アメリカ・モンタナ州で発見された恐竜の巣です。モンタナ州のある場所にある地層の一つがずっと広



がっていました。そこを掘っていくと、200以上の恐竜のりっぱな巣があることが分かりました。少なくとも200家族の恐竜がそこで暮らしていたことを知ることは、恐竜がどのような動物か知るための大切なデータになります。

恐竜の生活の仕方は面白い！

ここに恐竜の足跡がついています。ずっと足跡がついていて先が海になっています。足跡を付けた時、海があったかどうかは分かりません。恐竜の足跡は世界中のいろんなところからでて来ています。



これはアメリカにある恐竜の足跡です。何列も並んでいます。整然と並んで歩いて行っている様子が見て取れます。



いろんな恐竜の足跡がここについています。三つ指の恐竜、ドンとした丸い穴の恐竜の足跡があり、ここはいろんな恐竜が行ったり来たりしている場所だと分かります。不思議なことにいろんな恐竜が狭い場所にたくさん集まっていることがあるのです。

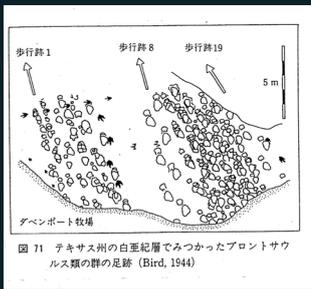
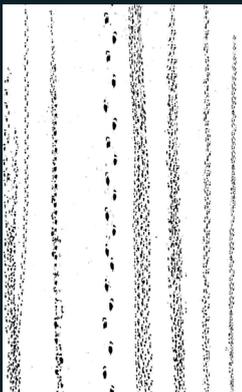


図 71 テキサス州の白亜紀層でみつかったプロントサウルス類の群の足跡 (Bird, 1944)

恐竜の足跡をスケッチすると、「恐竜銀座」と呼んでいるのですが、あちこちにいろんな恐竜が散歩しているような足跡が残っています。この足跡から何が分かるのでしょうか。



この図を見て分かるように、この恐竜は群を作って移動をしていたのです。さらに想像して、子供の恐竜や弱い恐竜を真ん中にして、周りを強い恐竜が守りながら**集団移動**していたことがこの足跡から分かるのではと思います。

どうして恐竜はいなくなったの？

進化論者たちは次のように言います：



・科学者は、6500万年前に隕石が地球に落ちて爆発して、気候が急に寒くなって、食物がなくなって死に絶えた、といます。いろんな説がでて来ています。原因は、腹を壊して下痢を起こした、

食べたものにアルカロイドが多くて中毒になった、便秘したなどといろんな説があります。いずれにせよ、恐竜はパタッと絶滅しているのです。私たちはノアの洪水であると考えれば納得はいくのですが、世の中の人は恐竜が絶滅した原因が分からないのです。

聖書には世界をおおった大洪水が起きて、大部分の恐竜や動物たちが滅びたと書いてあります。



前の時間お見せしましたが、一体分まるまる見つかる恐竜は「悶死の恐竜」と言っていほど、恐竜はみんな苦しみながら死んでいった跡があるのです。これは世界が大洪水でおおわれたという証拠になるのではないかと、私は思うのです。実にたくさん苦しんで死んだ恐竜がまとまって出て来ます。



中国の自貢 (ツーゴン)

の恐竜発掘現場です。ここには約2000頭分の恐竜の骨があります。ここにも立派な博物館が出来ています。



これは私たちが掘り出したものです。おもしろいことは、私たちが掘っているところの恐竜の骨の多くはこのようにピカピカ光って出て来るのです。これは掘り出した後磨いているので

はありません。この意味するところは、水と泥で磨かれたのではないのだからということです。つまり恐竜の骨が長い距離を水と泥に埋まりながら運ばれて、いつの間にかピカピカに磨かれたのではと、私たちは



考えています。私たちの掘っている場所は、水と泥で運ばれたその一番端を掘っているのではと考えています。

それぞれの場所でどのような骨が出ているかを表わした表です。

地層の中の化石（上の方に小さい化石、下の方に大きい化石）（単位はcm）

	Site1	Site2	Site3
指の骨	+ 14.7	+ 18.2	+ 28.5
爪・蹄	+ 9.9	+ 16.1	+ 28.1
地層の中心	0.0	0.0	0.0
掌骨	- 10.6	+ 0.1	+ 9.4
中足骨	- 27.1	+ 1.3	- 0.7
肩甲骨	- 30.8	- 28.0	- 12.5

指の骨、爪、蹄はこの地層の真ん中から上の方に出て来ます。上に行くほど小さな骨、少し下になると少し大きくなり、下の方になると肩甲骨、さらにその下からは大腿骨が出ます。この表は上の方に小さい骨、下の方に大きい骨が出て来ることを表わしています。これの意味を単純に考えれば、この地層に含まれている骨は遠くから水で運ばれてきた、泥と一緒に流れてきてピカピカに光るものもあるし、流れた最後には小さいものが上で、大きいものが下になった、これは分かりますね。このデータが表わしていることは、遠くから水と泥砂などと一緒に流れてきたということです。

どうしてこんなに沢山の恐竜の化石が集まって埋まっているの？

1. 同じ場所で恐竜が自然に死んで次から次へと埋まった。
2. 沢山の恐竜と一緒に急に死んで、泥や砂に巻き込まれて、運ばれて埋まった。水の力だ！

大洪水ならそれが起こる！

これが私たちが掘っている場所の骨の出方から出てきた、一つの仮説です。

結論として：－

1. 恐竜がいたことは足跡や化石の骨などで分かります。
2. 恐竜の大きさは、恐竜には大きいのが小さいのがいました。一番多い（平均）のはラクダやウシやウマやヒツジくらいでした。
3. どんな生活？

恐竜の生活は、大部分が草食で、集団で子育てし、親子仲良く暮らしていました。

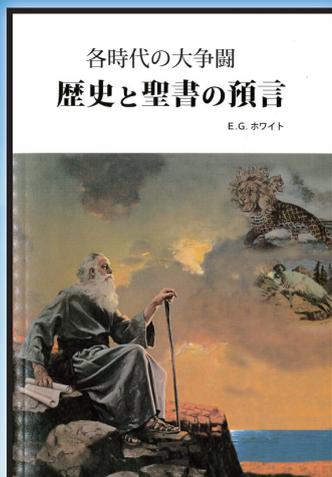
4. どうして滅びたの？

恐竜が滅びたのは、一斉に瞬間的に死んで水で運ばれ土砂に埋没しました。大部分の恐竜は聖書に書かれているノアの大洪水で滅びたと考えられます。

このように考えるのが一番合理的ではないでしょうか。これが今私たちが出している仮説です。私たちが掘った恐竜の骨をいろいろ調べてみると、どうしても大きな洪水が起きて、大きな恐竜の骨が運ばれるような水が出て、発掘している場所に転がって来たと考えざるを得ないそのような状況で出てきていることは確かなのです。私たちは恐竜の骨を掘り出すひとかきが、骨のクリーニングが、その行動ひとつひとつが、聖書に書かれているノアの洪水を証する働きだと思いながら、掘っています。「恐竜の骨を掘る」ことでも、神様のあかしになり、神様がおっしゃることが真実であることを証明することになると考えれば、私たちの日常生活にかかわっているいろんなことが全部、み名の御業につながっているということを考えたいです。

もちろん、そうでないことを私たちは出来ます。神様に背を向けることも出来ます。私たちがその気になれば、十分にこの終わりの時代に証をすることができるということを覚えたいと思います。そのために神様は私たちが今、この地球の上に、この土地において下さっているのかも知れません。そのことを考えながら、イエス様のご再臨を待つというのは、これほど楽しくて素晴らしいものはないのではないのでしょうか。こんな素晴らしい人生は他にないのではないのでしょうか……と、私は思うわけです。恐竜からこのようなことを考えさせていただきました。

「歴史と聖書の預言」の増刷



各時代の大争闘は、次のような疑問に答えてくれる：

1. この世の悪はどこに起源があるか？
2. 神がおられるなら、どうしてすぐ悪魔を滅ぼさなかったのか？
3. 各時代、善と悪の大争闘がどのように人類歴史に展開してきたか？
4. 各時代の帝国の興亡がどのように神の民と関わってきたか？
5. イエス・キリストは何のためにこの地上に来られたのか？
6. イエス・キリストが昇天されて後、何をされているか？この地上では、善と悪の大争闘がどのように展開されていくか？
7. 歴史を見ると、真理を託された神の民が迫害され、サタンが勝利しているように見える。異教ローマの支配下においてしかり、ローマ法王教においてもしかり。なぜ、あまりにも多くのキリスト教殉教者が出るのを神は許されたのだろうか？
8. イエス・キリストの真理が託された教会はどのように存続してきたか？
9. ローマ法王教（カトリック）は、「サタンの生んだ一大傑作」とはどういう意味か？
10. プロテスタント宗教改革運動は何であったのか？
11. 中世時代にヨーロッパを支配したローマ法王教の復活、その狙いは何か？
12. 終わりの時代に世界の覇権を握るのは誰か？ アメリカ？ 中国？ ロシア？ 国際ユダヤ？ フリーメイソン？ イルミナチ？ イエズス会？ イスラム勢力？ ニューエイジ運動？ それともローマ法王教（バチカン）？
13. ローマ法王教（バチカン）が世界支配を狙っているとすれば、どんな戦略があるか？
 - ・政治戦略、経済戦略、宗教戦略？
 - ・キリスト教一致運動、世界宗教大連合は、どこまで成功しているか？
14. プロテスタントの国、米国はどのように変貌していくか？
15. 聖霊運動、リバイバル、後の雨運動の真実？
16. 最後のハルマゲドンの戦いとは？
17. 真理を託された民は、勝利するか？ 神は最後のサタンの猛攻撃にどのように介入なさるか？
18. どんな偽りの教義が、どれほどの人を惑わすか？

等々の疑問に解答を与えるのが本書である。各時代の善と悪の大争闘を解説するだけでなく、「最後の善と悪の大争闘」を解明する現代人の必読書！！

『各時代の大争闘』は金銀以上のもの—『各時代の大争闘』は広範囲に配布しなければならない。それには過去、現在、未来のことがらが含まれている。この地上歴史の終わりの光景についての略述で、真理のために力強いあかしが立てられている。私は私が書いた他のどの書物よりもこの書物が広く配布されることを熱望する。なぜならば、『各時代の大争闘』には世界に対する最終の警告使命が、私の書いたどの本よりもはるかに明確に示されているからである」。一書簡・第281号・1905年

お願い：

この大争闘を「秋の木の葉のようにまき散らさなければならない」との勧告に従いつつ、サンライズミニストリーでは、この度 10,000 冊増刷することになりました。皆様のご支援を切にお願いいたします。「外見は有望ではないかもしれないが、活動と神に対する信頼は、資源をつくり出すのである」（国と指導者上 211）。